

# **HDE Controller<sup>®</sup> 4**

*Web-based Administration Software for Linux Servers*

■ **ISP Edition**

バーチャルドメインマニュアル

本マニュアルは、製品の改良等により予告なしに変更される場合があります。

HDE および HDE Controller は、株式会社 HDE の登録商標です。

本マニュアルに記載されている社名、団体名および製品名は、各社あるいは各団体の商標または登録商標です。

PDF ファイルからの印刷による場合のみ、本マニュアルを複製することができます。これ以外に本マニュアルおよび本マニュアルの印刷物を複製、譲渡、貸与、翻案、翻訳または公衆送信することはできません。

本マニュアルの無断転載を禁じます。

© 2007 株式会社 HDE

# マニュアルの読み方

## このマニュアルについて

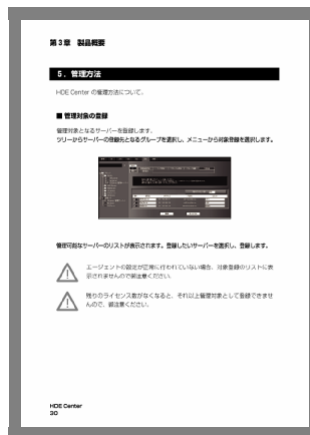
『HDE Controller 4 ISP Edition バーチャルドメインマニュアル』では、実際の表示画面に従い、各機能・項目を実際の運用に即した形で説明しています。説明内で、注意すべき点、語句について補足が必要な点などについては、注釈を設けています。



説明中、注意すべき点がある場合は、注意マークや、黒枠での注意書きにて、注意を促しています。



HDE Controller 4 を使用する上で参考になる項目については、「ヒント」アイコンがついています。



# HDE Controller 4 ISP Edition バーチャルドメインマニュアル もくじ

<b>1. Webサーバー</b> .....	<b>1</b>
1. 基本設定 .....	2
2. ディレクトリ管理 .....	4
3. ディレクトリ追加 .....	7
4. ディレクトリ認証設定 .....	9
5. ディスク使用量一覧 .....	10
6. アクセスランキング .....	11
7. Alias設定 .....	12
<b>2. セキュアWebサーバー</b> .....	<b>15</b>
1. 基本設定 .....	16
2. ディレクトリ管理 .....	17
3. ディレクトリ追加 .....	20
4. ディレクトリ認証設定 .....	22
5. 鍵と証明書の設定 .....	23
<b>3. FTPサーバー</b> .....	<b>27</b>
1. 基本設定 .....	28
<b>4. メールサーバー</b> .....	<b>29</b>
1. スプール容量制限 .....	30
2. スプール容量制限一括設定 .....	31
3. エイリアス設定 .....	32
4. 宛先不明メール転送設定 .....	34
5. 送信者認証設定 .....	35
<b>5. メーリングリスト</b> .....	<b>39</b>
1. メーリングリスト管理 .....	40
2. メーリングリスト作成 .....	42
3. テンプレート設定 .....	45
<b>6. DNSサーバー</b> .....	<b>47</b>
1. レコード管理 .....	48
<b>7. アカウント</b> .....	<b>49</b>
1. ユーザー管理 .....	50
2. ユーザー追加 .....	54
3. CSV一括ユーザー登録 .....	56

4. CSV一括ユーザー削除.....	58
5. CSV一括ユーザー保存.....	59
6. アクセス権限設定.....	60
7. アクセス権限一括設定.....	62
8. テンプレート設定.....	63
<b>8. ログ管理.....</b>	<b>65</b>
1. ログ閲覧.....	66
2. ログ監視.....	67
<b>9. バックアップ.....</b>	<b>69</b>
1. スケジュール追加.....	70
2. 今すぐバックアップ.....	72
3. バックアップファイルの復元.....	73
4. スケジュール編集.....	75
<b>10. ディスク使用容量制限.....</b>	<b>77</b>
1. 容量制限一覧.....	78
2. 容量制限一括設定.....	79
<b>11. バーチャルドメイン管理.....</b>	<b>81</b>
1. バーチャルドメインの状態.....	82
<b>12. HDE Controller設定.....</b>	<b>83</b>
1. お気に入り編集.....	84
<b>13. ユーティリティ.....</b>	<b>85</b>
1. ファイルマネージャー.....	86
<b>14. 個人情報管理.....</b>	<b>89</b>
1. ログインパスワード.....	90
2. 詳細設定.....	91
3. メール転送.....	92
4. メールパスワード.....	93
5. 自動メール返信設定.....	94
6. バックアップ/復元.....	95
7. ユーザーステータス.....	96

<b>15. CGIインストール .....</b>	<b>97</b>
概要 .....	98
1. CGI登録 .....	99
2. CGI制御 .....	100
3. CGIインストール .....	101
4. CGI管理 .....	102
5. CGIの初期化 .....	103
6. CGIパッケージング .....	104

# 1. Web サーバー

# 1. Web サーバー

## 1. 基本設定

Web サーバーの基本的な設定を行ないます。

### ■ 基本設定

基本設定	詳細設定	エラーメッセージの設定
基本設定		
Webサーバーの基本的な設定を行います。通常は特に変更する必要はありません。		
サーバー名	example.com	
ポート番号	80	
管理者メールアドレス	admin@example.com	
ドキュメントルート	/home/virtualdomain/example.com/html/	
<input type="button" value="設定する"/>		

「サーバー名」「ポート番号」「管理者メールアドレス」を入力します。

「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。

### ■ 詳細設定

基本設定	詳細設定	エラーメッセージの設定
詳細設定		
ここでは、個人のページのURLの指定方法と、サーバーのログ形式を選択します。		
ユーザー領域のURLのタイプ	http://www.example.com/Guestuser/	
サーバーログ形式	参照元	
リモートホスト名の逆引き	する	
<input type="button" value="設定する"/>		

ユーザー領域を公開する場合の URL のタイプ、サーバーのログ形式について設定します。

「ユーザー領域の URL のタイプ」を選択します。

下記のいずれかの形式となります。

例:

`http://example.com/~username/`

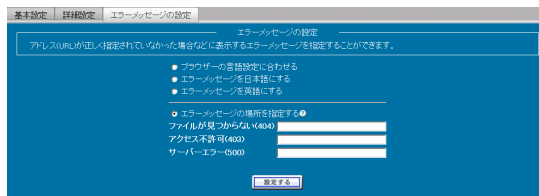
`http://example.com/users/username/`

「サーバーのログ形式」を選択します。

- ・エージェント＝閲覧している Web ブラウザのタイプを記録します。
- ・参照元＝表示したページがリンクされていた参照元 URL を記録します。
- ・画像＝表示したページに含まれる画像の URL を記録します。

「リモートホスト名の逆引き」を有効にするか設定します。メニューより「する」「しない」を選択します。逆引きを有効にした場合、Web サーバーのパフォーマンスが低下する場合があります。

## ■ エラーメッセージの設定



リクエストされた Web サイトのアドレスが間違っている場合に表示するエラーメッセージを設定します。エラーメッセージの言語を、以下から選択します。

- ブラウザの言語設定に合わせる
- エラーメッセージを日本語にする
- エラーメッセージを英語にする

エラーメッセージが記録されたファイルの場所を指定する場合は、「エラーメッセージの場所を指定する」を選択し、ファイルの保存されているパスを、以下のそれぞれの項目に入力します。

- ファイルが見つからない(404)
- アクセス不許可(403)
- サーバーエラー(500)

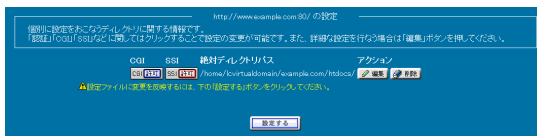
「設定する」ボタンをクリックして設定を完了します。

# 1. Web サーバー

## 2. ディレクトリ管理

Web サーバーで公開するディレクトリの設定を行います。

### ■ CGI・SSI の設定



CGI および SSI を設定する場合は「CGI」「SSI」ボタンをクリックします。

「許可」に設定されるとボタンが点灯した状態に変わります。

「設定する」ボタンをクリックして終了します。

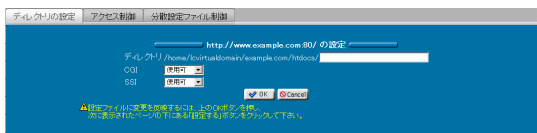


拡張子.cgi のファイルのみが実行可能です。

### ■ ディレクトリの設定編集

Web サーバーのディレクトリを編集します。

ディレクトリの一覧から、「編集」ボタンをクリックすると、「ディレクトリの設定」画面が表示されます。



「ディレクトリ」にパスを入力します。

「CGI」「SSI」それぞれの、「使用可」「使用不可」を選択します。

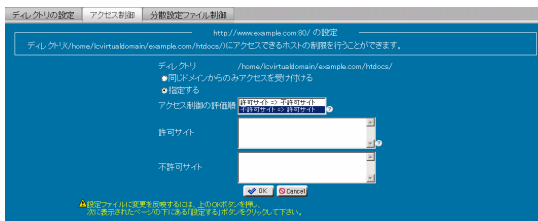
「OK」ボタンをクリックし、ディレクトリ一覧画面に戻ります。

「設定する」ボタンをクリックして終了します。

## ■ アクセス制御

ディレクトリのアクセス制御をします。

ディレクトリの一覧から、「編集」ボタンをクリックすると、「ディレクトリの設定」画面が表示されます。「アクセス制御」タブをクリックして設定画面を切り替えます。



同じドメインのみアクセスを許可する場合は、

「同じドメインからのみアクセスを受け付ける」を選択します。

制御対象を指定する場合は「指定する」を選択します。

「アクセス制御の評価順」メニューから、許可サイトと不許可サイトどちらの評価を優先するか選択し、「許可サイト」「不許可サイト」それぞれに制御対象となるアドレスを入力します。

「OK」ボタンをクリックして、ディレクトリ一覧画面に戻ります。

ディレクトリ一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして終了します。

## ● アクセス制御に入力できる形式

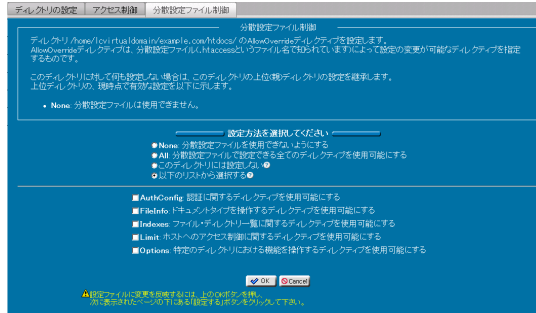
ホスト名	host.example.com
IP アドレス	192.168.0.1
IP アドレスの一部	192.168.0.
IP アドレス/ネットマスク	192.168.0.0/255.255.255.0
複数の指定	192.168.0.0/24 172.16.0.0/16 (それぞれスペースで区切るか改行)
全てを指定	all(全てのホストに対して設定します。)
ドメイン名	.example.com

# 1. Web サーバー

## ■ 分散設定ファイル制御

ディレクトリの AllowOverride ディレクティブを設定します。

AllowOverride ディレクティブは、分散設定ファイル(.htaccess というファイル名で知られています)によって設定の変更が可能なディレクティブを指定するものです。



このディレクトリに対して何も設定しない場合は、このディレクトリの上位(親)ディレクトリの設定を継承します。

分散設定ファイル制御を下記の設定方法から選択することができます。

None	分散設定ファイルを使用できないようにします
All	分散設定ファイルで設定できる全てのディレクティブを使用可能にします
このディレクトリには設定しない	上位(親)ディレクトリの設定を継承します
以下のリストから選択する	下記に示されたリストより設定方法を選択します AuthConfig: 認証に関するディレクティブを使用可能にする FileInfo: ドキュメントタイプを操作するディレクティブを使用可能にする Indexes: ファイル・ディレクトリ一覧に関するディレクティブを使用可能にする Limit: ホストへのアクセス制御に関するディレクティブを使用可能にする Options: 特定のディレクトリにおける機能を操作するディレクティブを使用可能にする

正しければ「OK」ボタンをクリックします。

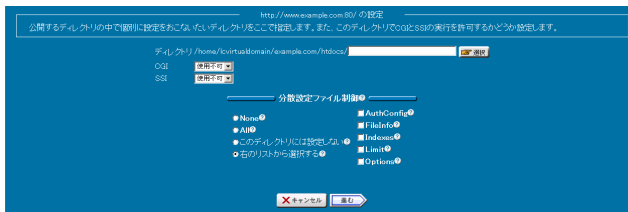
ディレクトリ一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして終了します。

### 3. ディレクトリ追加

Web サーバーを通して公開するディレクトリを追加します。

#### ■ ディレクトリの追加

Web サーバーで公開するディレクトリを追加し、CGI・SSI の許可を設定します。



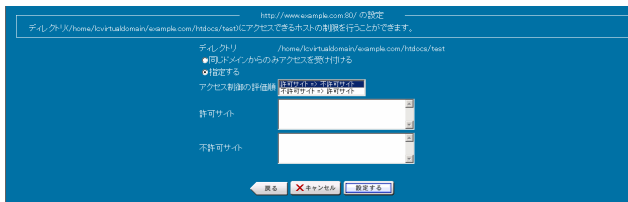
追加するディレクトリのパスを、「ディレクトリ」に入力するか、「選択」ボタンをクリックし、ディレクトリ選択画面から選択します。

分散設定ファイル制御を下記の設定方法から選択します。

None	分散設定ファイルを使用できないようにします
All	分散設定ファイルで設定できる全てのディレクティブを使用可能にします
このディレクトリには設定しない	上位(親)ディレクトリの設定を継承します
以下のリストから選択する	下記に示されたリストより設定方法を選択します AuthConfig: 認証に関するディレクティブを使用可能にする FileInfo: ドキュメントタイプを操作するディレクティブを使用可能にする Indexes: ファイル・ディレクトリ一覧に関するディレクティブを使用可能にする Limit: ホストへのアクセス制御に関するディレクティブを使用可能にする Options: 特定のディレクトリにおける機能を操作するディレクティブを使用可能にする

# 1. Web サーバー

「進む」ボタンをクリックして次の設定へ進みます。



ディレクトリのアクセス制御を設定します。

同じドメインのみアクセスを許可する場合は、「同じドメインからのみアクセスを受け付ける」を選択します。

制御対象を指定する場合は「指定する」を選択します。

「アクセス制御の評価順」メニューから、許可サイトと不許可サイトどちらの評価を優先するか選択し、「許可サイト」「不許可サイト」それぞれに制御対象となるアドレスを入力します。

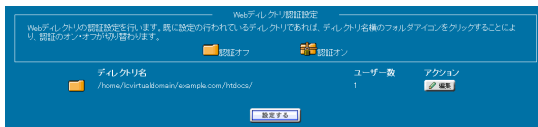
正しければ「設定する」ボタンをクリックして設定を完了します。

## ● アクセス制御に入力できる形式

ホスト名	host.example.com
IP アドレス	192.168.0.1
IP アドレスの一部	192.168.0.
IP アドレス/ネットマスク	192.168.0.0/255.255.255.0
複数の指定	192.168.0.0/24 172.16.0.0/16 (それぞれスペースで区切るか改行)
全てを指定	all(全てのホストに対して設定します。)
ドメイン名	.example.com

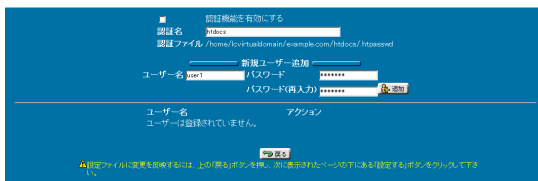
## 4. ディレクトリ認証設定

Web サーバーで公開するディレクトリの、認証設定を行います。



### ■ ディレクトリ認証の設定

Web ディレクトリの一覧より、認証を設定するディレクトリの、「編集」ボタンをクリックします。  
認証内容の設定画面が表示されます。



「認証名」に認証時に表示する内容を入力します。(例: ENTER PASSWORD)

認証の為の「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力し、「追加」ボタンをクリックすると、設定が追加されます。

追加した認証を使用する場合は、「認証機能を有効にする」を選択します。

アクセス可能なユーザーを追加する場合は、「ユーザー名」「パスワード」を入力し、「追加」ボタンをクリックして、追加します。

「戻る」ボタンをクリックし、ディレクトリ一覧画面に戻ります。

「設定する」ボタンをクリックして設定を完了します。

既に認証が設定されているディレクトリについては、ディレクトリ一覧画面で、フォルダのアイコンをクリックすることにより認証の有効／無効を切り替えることが出来ます。

# 1. Web サーバー

## 5. ディスク使用量一覧

ユーザーの Web スペース使用量を一覧表示します。

### ■ ディスク使用量一覧

ユーザー名	ディレクトリ	ディスク使用量(MByte)
horizon	/home/horizon/public_html/	0.00
user1	/home/user1/public_html/	0.00
user2	/home/user2/public_html/	0.00

ディスク使用量一覧には、ユーザー名、ディレクトリ、ディスク使用量、が一覧表示されます。

ユーザーを検索する場合は、「ユーザーの検索」に検索キーワードを入力します。

検索結果の表示件数を変更する場合は、「表示件数」の値を変更します。

システムアカウントは通常表示されません。システムアカウントを検索結果として表示させる場合は、「システムアカウントも表示する」を選択します。

「検索」ボタンをクリックして、検索を実行します。

ユーザー名の頭文字から検索する場合は、「ユーザー名の頭文字」に表示される、頭文字の範囲をクリックします。

全てのユーザーを一度に表示する場合は、「全て表示」をクリックします。

ユーザー名、ディスク使用量については、項目名をクリックすることで、表示を、降順／昇順に切り替えることが出来ます。

## 6. アクセスランキング

Web サーバーへのアクセスランキングを表示します。

### ■ アクセスランキング

アクセス解析の条件を、「時間毎のレポート」「一般的なレポート」それぞれから選択します。

「進む」ボタンをクリックして、次の設定に進みます。

Web サーバーの統計として、解析の結果が表示されます。

**ウェブサーバの統計**

統計開始日時 : 2005年 9月03日 (土) 00時42分.  
解析対象期間 : 2005年 6月17日 (金) 23時16分 ~ 2005年 6月17日 (金) 23時24分 (0.01 日).

---

**全体の概要**

(Go To [言語](#) [全体の概要](#) [月別レポート](#) [時間別レポート](#) [ドメインレポート](#) [ディレクトリレポート](#))

このレポートは、全体の統計を表示します。

リクエスト成功件数: 10  
異なるリクエストファイル数: 1  
異なるサービスホスト数: 1  
データ転送量: 126 キロバイト

---

**月別レポート**

(Go To [言語](#) [全体の概要](#) [月別レポート](#) [時間別レポート](#) [ドメインレポート](#) [ディレクトリレポート](#))

このレポートは、月別の統計を表示します。

1単位 (→) は 1 ページのリクエスト。

月	リクエスト数	ページ数
-----	-----	-----
2005年 6月	10	0

最も混雑した月 : 2005年 6月 (0 ページのリクエスト)。

# 1. Web サーバー

## 7. Alias 設定

Web サーバーへのアクセスに対して、アドレスの変換を行う Alias の追加を行います。

### ■ Alias の追加

Alias, AliasMatch, ScriptAlias, ScriptAliasMatch ディレクティブを追加します。

各ディレクティブの違いは以下の通りとなります。

- **Alias**

URL の特定のパターンを、特定のディレクトリ・ファイルに割り当てます。変換元 URL にマッチするパターンが、そのまま変換先 Path に置き換わります。

- **AliasMatch**

機能としては Alias と同じですが、変換元 URL を正規表現で指定する点が異なります。変換先 Path では、後方参照として \$1, \$2...が使用できます。

- **ScriptAlias**

値の指定は Alias と同じですが、変換先 Path にあるファイルが、CGI 等のスクリプトであることを暗黙に指定できるので、拡張子が.cgi でない CGI ファイルを実行したい場合に便利です。

- **ScriptAliasMatch**

機能としては ScriptAlias と同じですが、変換元 URL を正規表現で指定する点が異なります。変換先 Path では、後方参照として \$1, \$2...が使用できます。

評価順には、新しい Alias 設定を挿入する場所を指定します。すでに同じ値の Alias 設定がある場合は、指定した場所に新しいものが挿入され、以降がひとつずつずれます。

Alias タイプには、上記ディレクティブから、追加したい Alias タイプを選択します。

変換元 URL には、アクセスされる URL を入力します。変換先 Path には、そのアドレスにアクセスした場合に実際にアクセスされるファイルシステム上の Path を入力または、ファイルセクターより選択します。

変換先 Path には、バーチャルドメインのホームディレクトリ(/home/lcvirtualdomain/ドメイン名/)以下以外は指定できません。

一部の設定は HDE Controller が必要とするため、編集や削除することができなくなっています。



## ■ Alias の評価順変更

追加された Alias 設定の評価順を変更します。評価順を変更する行を選択し(複数選択可能)、上下ボタンを押すことにより、その行の評価順を上下に移動することができます。移動し終わったら、「設定する」ボタンをクリックします。

Alias 設定は、評価順の昇順に評価されます。すなわち、より上位にある Alias 設定のサブセットを、それよりも下位に指定しても有効になることはありません。

例:

評価順	Alias タイプ	変換元 URL	変換先 Path
1	Alias	/abc	htdocs/abc
2	ScriptAlias	/abc/def	htdocs/def

この場合、/abc/def にアクセスしても、より上位にある/abc のルールにマッチしてしまうため、/home/lcvirtualdomain/ドメイン名/htdocs/def へはアクセスされず、/home/lcvirtualdomain/ドメイン名/htdocs/abc/def にアクセスされます。

# 1. Web サーバー

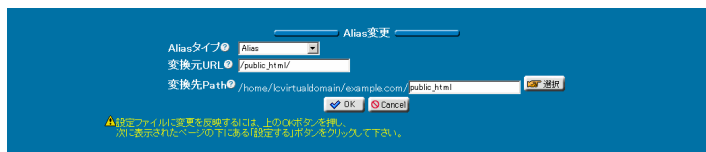


## ■ Alias の編集

追加された Alias 設定の値を変更します。一覧から編集したい行の編集ボタンをクリックします。

Alias タイプ、変換元 URL、変換先 Path を変更し、OK ボタンをクリックします。

全ての編集が終了したら、「設定する」ボタンをクリックします。



## 2. セキュア Web サーバー

## 2. セキュア Web サーバー

### 1. 基本設定

セキュア Web サーバーの基本的な設定を行ないます。

#### ■ 基本設定



「サーバー名」「管理者メールアドレス」を入力します。

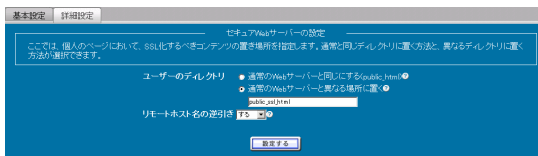
「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。



root ユーザーはポート番号を変更することもできます。

#### ■ 詳細設定

セキュア Web サーバーを通して公開する、ユーザーのディレクトリを設定します。



通常の Web サーバーと同じ設定(public\_html)にする場合は、

「通常の Web サーバーと同じにする」を選択します。

通常の Web サーバーと異なるディレクトリを指定する場合は、

「通常の Web サーバーと異なる場所に置く」を選択し、ディレクトリ名を入力します。

リモートホスト名を逆引きする場合は「リモートホスト名の逆引き」を「する」に設定します。「する」に設定した場合、アクセス元のホスト名が、アクセスログに記録されますが、Web サーバーのパフォーマンスが低下することがあります。

正しければ「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。

## 2. ディレクトリ管理

セキュア Web サーバーのディレクトリについて個別に管理・設定します。

### ■ 基本設定



CGI、および、SSIを有効にする場合は「CGI」「SSI」をクリックします。ボタンが点灯した状態に変わります。正しければ「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

### ■ 詳細な設定

詳細な設定を行う場合は、ディレクトリ一覧画面から「編集」ボタンをクリックします。「ディレクトリの設定」「アクセス制御」の設定タブが表示されます。



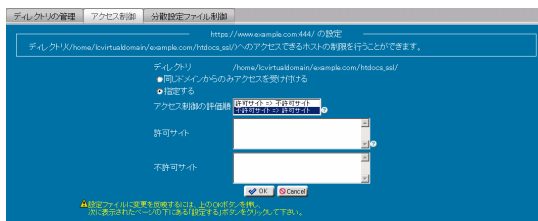
「ディレクトリの設定」メニューでは、ディレクトリの変更、CGI・SSIの使用可否を設定します。ディレクトリを変更する場合は、ディレクトリの場所を修正します。

CGI・SSIの使用許可を設定します。

設定が正しければ「OK」ボタンをクリックしてディレクトリ一覧画面に戻ります。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

アクセス制御メニューでは、ディレクトリのアクセス制限を設定します。



同じドメインのみ許可する場合は、「同じドメインからのみアクセスを受け付ける」を選択します。

制御対象を指定する場合は、「指定する」を選択します。

「アクセス制御の評価順」メニューから、許可サイト優先か、不許可サイト優先か選択し、「許可サイト」「不許可サイト」それぞれに適切な値/ドメイン名を入力します。

正しければ「OK」ボタンをクリックします。

## 2. セキュア Web サーバー

- アクセス制御に入力できる形式

ホスト名	host.example.com
IP アドレス	192.168.0.1
IP アドレスの一部	192.168.0.
IP アドレス/ネットマスク	192.168.0.0/255.255.255.0
複数の指定	192.168.0.0/24 172.16.0.0/16 (それぞれスペースで区切るか改行)
全てを指定	all(全てのホストに対して設定します。)
ドメイン名	.example.com

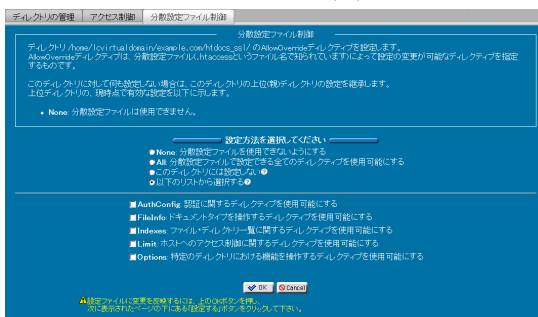
ディレクトリ一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を完了します。

## ■ 分散設定ファイル制御

ディレクトリの AllowOverride ディレクティブを設定します。

AllowOverride ディレクティブは、分散設定ファイル(.htaccess というファイル名で知られています)によって設定の変更が可能なディレクティブを指定するものです。

このディレクトリに対して何も設定しない場合は、このディレクトリの上位(親)ディレクトリの設定を継承します。



分散設定ファイル制御を下記の設定方法から選択することができます。

None	分散設定ファイルを使用できないようにします
All	分散設定ファイルで設定できる全てのディレクティブを使用可能にします
このディレクトリには設定しない	上位(親)ディレクトリの設定を継承します
以下のリストから選択する	<p>下記に示されたリストより設定方法を選択します</p> <p><b>AuthConfig:</b> 認証に関するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>FileInfo:</b> ドキュメントタイプを操作するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>Indexes:</b> ファイル・ディレクトリ一覧に関するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>Limit:</b> ホストへのアクセス制御に関するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>Options:</b> 特定のディレクトリにおける機能を操作するディレクティブを使用可能にする</p>

正しければ「OK」ボタンをクリックします。

ディレクトリ一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして終了します。

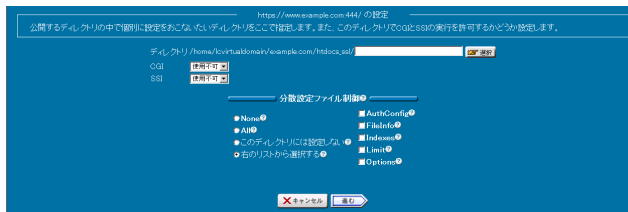
## 2. セキュア Web サーバー

### 3. ディレクトリ追加

セキュア Web サーバーのディレクトリを追加します。

#### ■ ディレクトリの追加

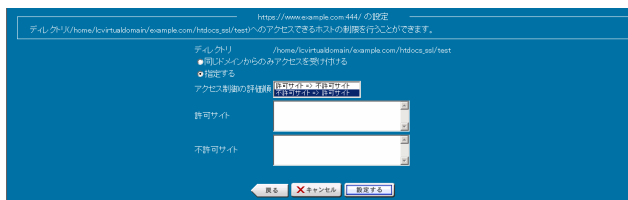
セキュア Web サーバーを通して公開するディレクトリを追加し、CGI・SSI の許可を設定します。



公開するディレクトリのパスを「ディレクトリ」に入力するか、「選択」ボタンをクリックして、ディレクトリ選択画面から選択します。

CGI・SSI の使用を、「使用可」「使用不可」から選択します。

「進む」ボタンをクリックして、次の設定へ進みます。



ディレクトリのアクセス制御を設定します。

分散設定ファイル制御を下記の設定方法から選択します。

None	分散設定ファイルを使用できないようにします
All	分散設定ファイルで設定できる全てのディレクティブを使用可能にします
このディレクトリには設定しない	上位(親)ディレクトリの設定を継承します
以下のリストから選択する	<p>下記に示されたリストより設定方法を選択します</p> <p><b>AuthConfig:</b> 認証に関するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>FileInfo:</b> ドキュメントタイプを操作するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>Indexes:</b> ファイル・ディレクトリ一覧に関するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>Limit:</b> ホストへのアクセス制御に関するディレクティブを使用可能にする</p> <p><b>Options:</b> 特定のディレクトリにおける機能を操作するディレクティブを使用可能にする</p>

「進む」ボタンをクリックして、次の設定へ進みます。

同じドメインのみ許可する場合は、「同じドメインからのみアクセスを受け付ける」を選択します。

制御対象を指定する場合は、「指定する」を選択します。

「アクセス制御の評価順」メニューから許可サイト優先か、不許可サイト優先か選択し、「許可サイト」「不許可サイト」それぞれに適切な値/ドメイン名を入力します。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## ● アクセス制御に入力できる形式

ホスト名	host.example.com
IP アドレス	192.168.0.1
IP アドレスの一部	192.168.0.
IP アドレス/ネットマスク	192.168.0.0/255.255.255.0
複数の指定	192.168.0.0/24 172.16.0.0/16 (それぞれスペースで区切るか改行)
全てを指定	all(全てのホストに対して設定します。)
ドメイン名	.example.com

## 2. セキュア Web サーバー

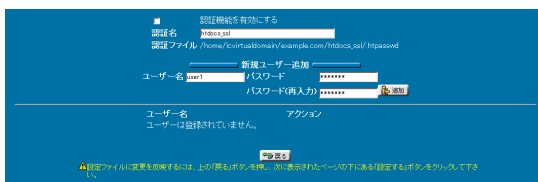
### 4. ディレクトリ認証設定

Web サーバーで公開するディレクトリの、認証設定を行います。

#### ■ ディレクトリ認証の設定



Web ディレクトリの一覧より認証を設定するディレクトリの、「編集」ボタンをクリックします。



「認証名」に認証時、認証ダイアログに表示する内容を入力します。

(例: ENTER PASSWORD)

認証の為の「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力し「追加」ボタンをクリックします。設定が追加されます。

追加する認証を使用する場合は「認証機能を有効にする」を選択します。

「戻る」ボタンをクリックし、ディレクトリ一覧画面に戻ります。

「設定する」ボタンをクリックして設定を完了します。

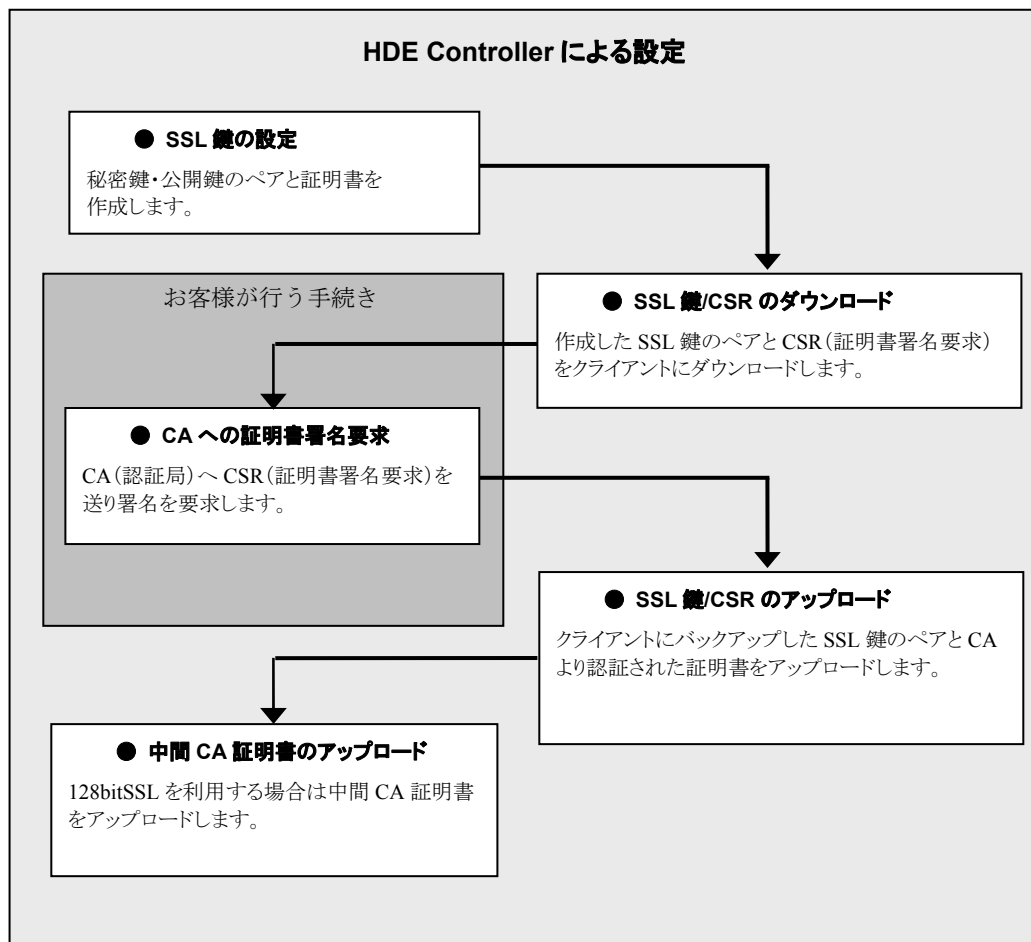
既に認証が設定されているディレクトリについては、ディレクトリ一覧画面で、フォルダのアイコンをクリックすることにより認証の有効／無効を切り替えることが出来ます。

## 5. 鍵と証明書の設定

セキュア Web サーバーの SSL 暗号化の為の秘密鍵・公開鍵の設定を行ないます。

### ■ 設定の流れ

鍵と証明書の設定の流れは以下のようになります。



## 2. セキュア Web サーバー

### ■ 現在の証明書の情報

現在設定されている証明書の情報が表示されます。

The screenshot shows the '現在の証明書の情報' (Current Certificate Information) page. It contains a table with the following data:

項目	受発者	発行者
国名	JP	JP
都道府県名	Tokyo	Tokyo
市町村名	Shibuya-ku	Shibuya-ku
組織名	HDC	HDC
部署名	HDC TEST CERTIFICATE PUBLISHER	HDC TEST CERTIFICATE PUBLISHER
サーバ名とドメイン名	dev04.local.hdc.co.jp	dev04.local.hdc.co.jp
E-mail アドレス		

### ■ SSL 鍵の設定

セキュア Web サーバー用の SSL 鍵を設定します。

The screenshot shows the 'WebサーバーのSSLキー設定' (Web Server SSL Key Setting) page. It contains a form with the following fields and values:

項目	値
国名	JP
都道府県名	Tokyo
市町村名	Shibuya-ku
組織名	HDC
部署名	HDC TEST CERTIFICATE PUBLISHER
サーバ名とドメイン名	dev04.local.hdc.co.jp
E-mail アドレス	notmaster@hdc.co.jp

Web サーバーへのアクセスを SSL 化させるためこの設定により秘密鍵／公開鍵および証明書の発行が必要です。

「国名／都道府県名／市町村名／組織名／サーバ名とドメイン名／E-mail アドレス」を正しく入力します。

設定方法として、下表のいずれかから選択します。

### ● SSL 鍵の設定方法

上記の情報を更新します。SSL 鍵のペアと証明書が作成されることはありません。	既に設定されている証明書の情報のみを更新します。
新しい SSL 秘密鍵／公開鍵のペアと、証明書を作り直します。	新規に SSL 秘密鍵／公開鍵、証明書を作成します。初めて設定する場合や証明書を変更する場合は必ず行ないます。
上記の情報を用いて、証明書のみを作り直します。	既に設定されている鍵／証明書情報を元に、証明書のみを作り直します。

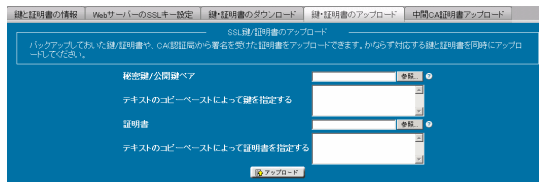
### ■ SSL 鍵/証明書/CSR ダウンロード

The screenshot shows the 'SSL鍵/証明書/証明書署名要求ダウンロード' (SSL Key/Certificate/Certificate Request Download) page. It contains a table with the following data:

項目	ダウンロード
証明書署名要求(CSR)	ダウンロード
秘密鍵/公開鍵ペア	ダウンロード
証明書	ダウンロード

SSL 鍵・証明書と CSR (証明書署名要求) をクライアントにダウンロードすることができます。  
CSR は CA (認証局) へ送付するためにダウンロードを行いません。  
秘密鍵・公開鍵ペア、および、証明書はバックアップのためにダウンロードを行いません。  
「ダウンロード」ボタンをクリックするとファイルをダウンロードすることができます。

## ■ SSL 鍵/証明書アップロード



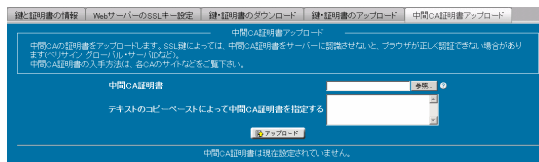
SSL 鍵・証明書をクライアントからアップロードすることができます。  
アップロードする鍵、証明書は必ず対応するものを同時にアップロードします。  
ファイルの保存されているパスを、「秘密鍵/公開鍵ペア」「証明書」それぞれに入力するか「参照」ボタンをクリックし直接ファイルが存在するディレクトリを指定します。  
テキストを直接入力することも可能です。



ファイルを指定する方法と、直接入力する方法を同時に行なうことはできません。

パスフレーズ付きの秘密鍵は利用することができません。

## ■ 中間 CA 証明書アップロード



中間 CA 証明書をアップロードします。  
Web ブラウザが正しく認証を行なうために中間 CA 証明書が必要な SSL 鍵の場合、必要になります。  
(128bit SSL を利用する場合に必要になります。ベリサイングローバルサーバー ID など)



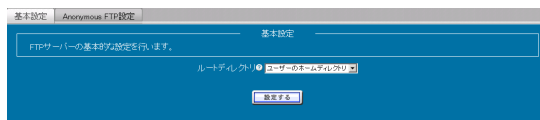
### 3. FTP サーバー

### 3. FTP サーバー

## 1. 基本設定

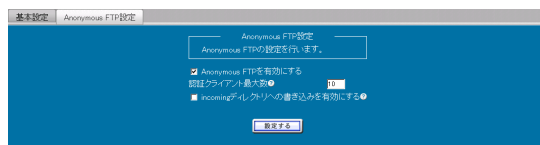
FTP サーバーの基本設定を行います。

### ■ 基本設定



バーチャルドメインのユーザーが FTP ログインした時のルートディレクトリを選択します。

### ■ Anonymous FTP の設定



匿名ログインを許可する Anonymous FTP について設定します。

Anonymous FTP を有効にする場合は、「Anonymous FTP を有効にする」を選択します。Anonymous FTP のログイン数を制限する場合は、「認証クライアント最大数」にログイン最大数を入力します。

ログインした匿名ユーザーに incoming ディレクトリへのファイルの書き込み (アップロード) を許可する場合は、「incoming ディレクトリへの書き込みを有効にする」を選択します。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

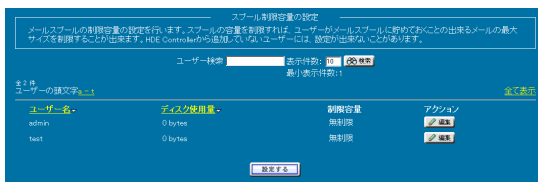
## 4. メールサーバー

## 4. メールサーバー

### 1. スプール容量制限

メールアカウントを持つユーザーが使用できる、メールスプール(メールを保存しておける領域)の容量を制限します。

#### ■ スプール容量の制限



スプール制限の容量を設定するユーザーを検索します。

「ユーザー検索」に検索キーワードを入力します。検索結果の表示件数を変更する場合は、「表示件数」の値を変更します。

通常システムアカウントは表示されません。検索結果にシステムアカウントを表示する場合は、「システムアカウントも表示する」を選択します。

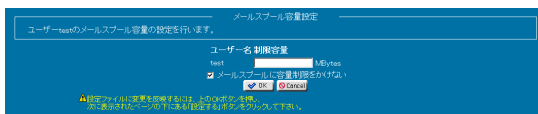
「検索」ボタンをクリックして、検索を実行します。

ユーザーの頭文字から検索する場合は、「ユーザーの頭文字」に表示されている、頭文字の範囲をクリックします。全てのユーザーを一度に表示する場合は、「全て表示」をクリックします。

ユーザー名、ディスク使用量については、項目名をクリックすることで、表示を、降順／昇順に切り替えることが出来ます。

制限容量を設定する場合は、「編集」ボタンをクリックします。

容量制限の設定画面が表示されます。



使用できる最大容量の値を「制限容量」に入力します。

容量制限をかけない場合は、「メールスプールに容量制限をかけない」を選択します。

「OK」ボタンをクリックします。

制限容量一覧画面に戻ります。

「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。

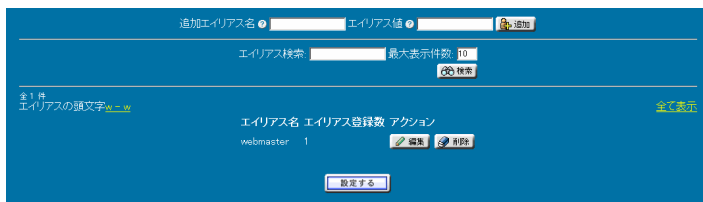


## 4. メールサーバー

### 3. エイリアス設定

メールアカウントに対して、他のメールアドレスへ転送するための設定を行います。

#### ■ エイリアスの設定



エイリアスにつける名前を、「追加エイリアス名」に入力します。



エイリアス名の最初の文字が、アルファベットの小文字とその他の文字には、「0-9」と「a-z - \_」が使用できます。

「エイリアス値」に転送先となる、ローカルユーザーのユーザー名、または、リモートユーザーのメールアドレスを入力します。

複数指定する場合は、「,」カンマで区切って入力します。

「追加」ボタンをクリックして、エイリアスを追加します。

「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。

#### ■ エイリアスの検索

エイリアスを検索する場合は、「エイリアス検索」に検索キーワードを入力します。

検索結果の表示件数を変更する場合は、「最大表示件数」の値を変更します。

システム予約エイリアスは通常表示されません。システム予約エイリアスを表示する場合は、「システム予約エイリアスを表示する」を選択します。


「検索」ボタンをクリックして、検索を実行します。

エイリアスの頭文字から検索する場合は、「エイリアスの頭文字」に表示されている頭文字の範囲をクリックします。

登録されているエイリアスを、全て一度に表示する場合は、「全て表示」をクリックします。

## ■ エイリアスの編集

エイリアスを編集する場合は、「編集」ボタンをクリックします。



「エイリアス値」に転送先となる、ローカルユーザーのユーザー名、または、リモートユーザーのメールアドレスを入力します。

複数指定する場合は、「,」カンマ、または、改行区切りで入力します。

「OK」ボタンをクリックします。

エイリアス一覧画面に戻ります。

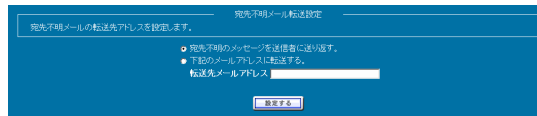
「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。

## 4. メールサーバー

### 4. 宛先不明メール転送設定

サーバーに存在しないアカウントやエイリアス宛のメールに対して、メールサーバーがどのような振る舞いをするかを設定します。

#### ■ 宛先不明メール転送設定



宛先不明メールの転送先を設定します。

宛先不明メールを送信者に送り返す場合は「宛先不明のメッセージを送信者に送り返す。」をチェックしてください。

宛先不明メールを特定のメールアドレスに転送する場合は「下記のメールアドレスに転送する。」をチェックして、「転送先メールアドレス」に転送先メールアドレスを入力します。

「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。

## 5. 送信者認証設定

SPF や DomainKeys といった送信者認証技術を利用し、アドレスを詐称したメールを判定することができます。



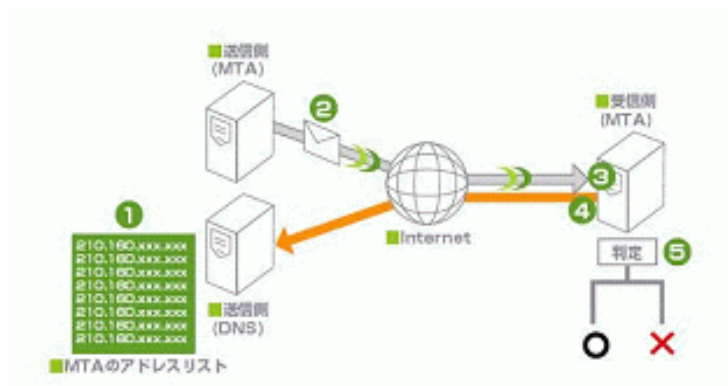
管理者の設定により、SPF 又は DomainKeys のどちらか一方の送信者認証技術を利用することができます。

### SPF とは

差出人のドメインで送信可能な正規メールサーバーの情報を管理し、メール受信時に、正規メールサーバーから送られてきたメールなのか送信元を偽ったメールなのかを判断する技術。フィッシングメールは通常送信元を偽っているため、この技術を利用し、メールの正当性を判別することができます。

### SPF の仕組み

1. あらかじめ送信側が自分のドメインの MTA (メールサーバー) のリストを DNS サーバーの特殊な記録 (TXT) に登録しておく (※正確にはリストの参照先とポリシーを登録する)。
2. 送信 MTA は普通にメールを送信する。
3. 受信側 MTA は、送信してきた MTA の IP アドレスを控える。
4. 受信側 MTA が、受け取ったメールアドレスの From: についているドメイン名の DNS に問い合わせ、TXT レコードを受け取る。
5. 受信側 MTA は、TXT レコードをもとに、MTA がそのドメインのものかどうかを確認し、無ければ送信者詐称と判断する。



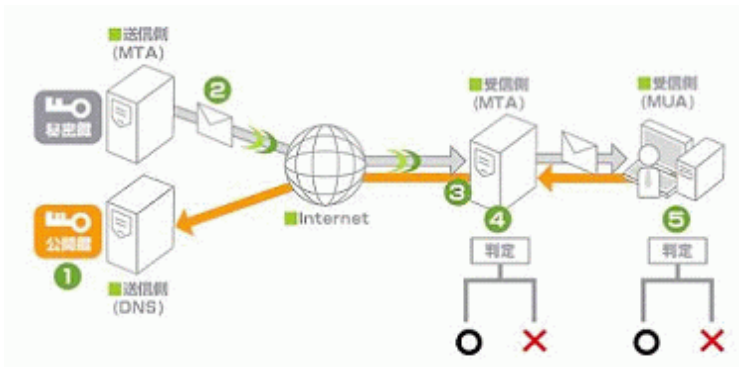
## 4. メールサーバー

### DomainKeys とは

送信されるメールに暗号化された電子署名がなされ、受信側がその内容を確認し、正しければ受信を許可する技術。フィッシングメールの場合、正しい電子署名を添付できないため、受信時に判別することができます。

#### DomainKeys の仕組み

1. あらかじめ送信側が自分のドメインの公開鍵を DNS サーバーの特殊なレコード(TXT)にテキスト形式で登録しておく。
2. 送信 MTA(メールサーバー)はメールを送信する際、秘密鍵と本文で署名を計算し、メールヘッダに埋め込む。
3. 受信側 MTA が、受け取ったメールアドレスの From: についているドメイン名の DNS に問い合わせ、公開鍵を受け取る。
4. 受信側 MTA は、公開鍵で署名を検証し、真正性を確認する。
5. 必ずしもサーバーベースの技術ではないので、MUA(メールソフト)でも真正性の確認をすることができる。



### ■ 送信者認証設定

送信者認証技術の利用設定を行います。



#### ● SPF を利用する場合

管理者により SPF が設定されている場合、利用することができます。ここで設定することはありません。



SPF を有効にすると、受信したメールに Received-SPF ヘッダが付加されます。



自サーバーのドメインが正しいものと証明するには、DNS サーバーのテキストフィールドに以下の SPF 情報を追加してください。(例: 自ドメインが example.com の場合)

```
example.com. IN TXT "v=spf1 a -all"
```

## ● DomainKeys を利用する場合

「DomainKeys を有効にする」にチェックを入れ、設定ボタンを押して下さい。

このドメインのマスターネームサーバーになっていれば、設定ボタンを押した時に、秘密鍵・公開鍵が生成され、DNS に DomainKeys 情報が自動的に登録されます。



このドメインのマスターネームサーバーになっていなければ、DomainKeys 鍵管理画面で公開鍵をダウンロードして、DNS サーバーに以下のようなテキストフィールドを追加してください。(例: example.com、公開鍵部は先頭・末尾行と改行を削除してください。)

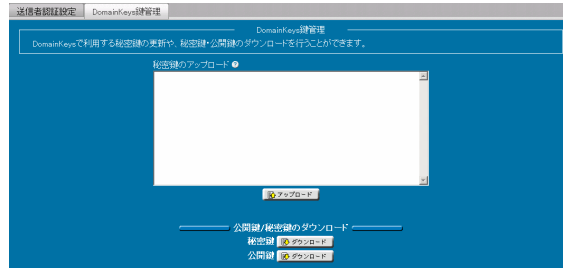
```
default_domainkey.example.com. IN TXT "t=y; k=rsa; p=公開鍵"
```



DomainKeys を有効にすると、受信したメールに DomainKey-Status ヘッダが、送信したメールに DomainKey-Signature ヘッダが付加されます。ただし、POP before SMTP や SMTP AUTH を利用してメールを送信した場合、「アクセス制御」で追加した IP アドレスに対してのみ DomainKey-Signature ヘッダが付加されます。また「アクセス制御」に該当しない IP アドレスから送信したメールには DomainKey-Status ヘッダが付加されます。

## ■ DomainKeys 鍵管理

DomainKeys で利用する秘密鍵のアップロードと、登録されている秘密鍵・公開鍵をダウンロードすることができます。



### ● 秘密鍵のアップロード

RSA 秘密鍵(RSA/SHA-1, 1024 bit)を貼り付けてください。鍵のアップロード後、公開鍵の生成、DNS 情報の書き換えを行います。



鍵は「送信者認証設定」で DomainKeys を有効にした際に自動的に生成されるため、複数サーバーで同じ鍵を使いたいなどの理由の無い限り、鍵をアップロードする必要はありません。

### ● 秘密鍵・公開鍵のダウンロード

現在登録されている秘密鍵・公開鍵をダウンロードすることができます。



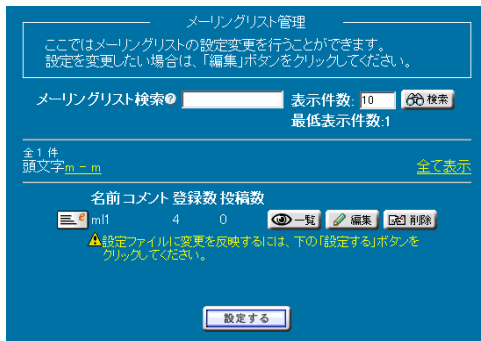
## 5. メーリングリスト

## 5. メーリングリスト

### 1. メーリングリスト管理

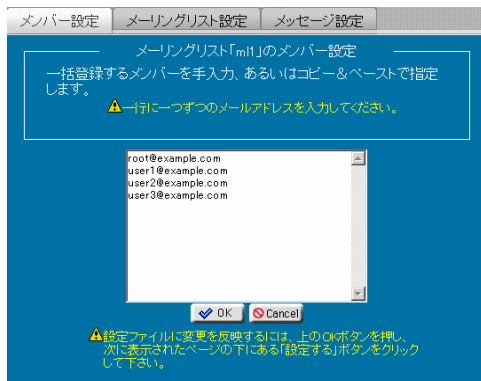
#### ■ メーリングリスト管理

既に追加されたメーリングリストの設定内容やメンバーの追加・削除を行うには、「メーリングリスト管理」をクリックします。



メーリングリストが一覧で表示されますので、設定変更したいメーリングリストの「編集」ボタンをクリックします。

メンバーの変更画面が表示され、メーリングリストのメンバーの追加・削除を行うことができます。



1つのメールアドレスにつき、1行で入力してください。

メーリングリストの設定内容を変更するには、「メーリングリスト設定」タブをクリックします。

変更可能な項目のそれぞれの説明は、「メーリングリスト作成」の説明をご参照下さい。変更後に、「OK」ボタンをクリックします。その後、表示される画面の「設定する」ボタンをクリックすることで、変更が反映されます。

メーリングリストへの投稿メールに特定のメッセージを自動的に付加したい場合は、「メッセージ設定」タブをクリックし、付加メッセージを設定します。

### ヘッダーメッセージ

投稿メールのメール本文の先頭に自動的に付加されるメッセージを設定します。

### フッターメッセージ

投稿メールのメール本文の末尾に自動的に付加されるメッセージを設定します。

設定後、「OK」ボタンをクリックします。その後、表示される画面の「設定する」ボタンをクリックすることで、変更が反映されます。

## ■ メーリングリストの削除

メーリングリストを削除するには、メーリングリストが一覧画面において削除したいメーリングリストの「削除」ボタンをクリックします。その後、「設定する」ボタンをクリックして削除を完了させます。

## 5. メーリングリスト

### 2. メーリングリスト作成

#### ■ メーリングリストの作成

メーリングリストを作成する方法について説明します。

あらかじめ、「テンプレート設定」でテンプレートを作成している場合は、その設定値が初期値として画面上に表示されます。

「メーリングリスト作成」画面では、下記の項目を設定することができます。

#### メーリングリスト名

作成したいメーリングリストの名前を入力します。

既存のメーリングリスト名、ユーザーアカウント名、または半角英数文字以外を指定することはできません。

#### コメント

このメーリングリストの簡単な説明を設定します。

全角英数字や半角カタカナを指定した場合、それぞれ半角英数字、全角カタカナに変更され設定されます。

この項目は、できるだけ半角英数字のみで設定してください。

#### 管理者メールアドレス

このメーリングリストの管理者のメールアドレスを設定します。参加や退会の承認が必要なメーリングリストを作成した場合は、subscribe/unsubscribe コマンドによる申し込みをすると、まずこのメールアドレスに承認確認のメールが送られます。

#### 管理用パスワード

コマンドメールによる承認操作などに利用されるパスワードです。

#### 投稿者制限

このメーリングリストに投稿を許可するユーザーを設定します。

通常は、「メンバーのみ」を選択してください。

「管理者のみ」を選択するとニュース配信型のリストを作成することができます。

### 返信先メールアドレス

このメーリングリストの投稿メールにつける Reply-To ヘッダのアドレスを設定します。

通常は、メーリングリストと同じアドレスを指定します。

空白で設定した場合は、投稿メールの送信者になります。

### 最大メッセージサイズ

このメーリングリストの投稿メールのメッセージサイズを制限します。

制限したい場合は、そのサイズをバイトで指定してください。

### アーカイブ

このメーリングリストの投稿メールのメッセージアーカイブを保存するかどうかを設定します。

アーカイブを保存すると、コマンドメールで過去のメッセージを取り寄せることが可能ですが、トラフィックの多いメーリングリストの場合はディスクを消費しますので、用途に合わせて設定してください。

以下の設定は、コマンドメールの動作を特定します。

メーリングリストの用途に合わせて、適切に設定してください。

### 参加方法

subscribe コマンドによるリスト参加方法の設定を行います。

「本人のみ」を選択した場合、コマンドメール送信者のアドレスのみ参加できます。

「管理者の承認が必要」を選択した場合、管理者の承認を受けた後参加できます。

「制限なし」を選択した場合、他人のアドレスを無条件で参加させることができます。

「参加確認を行う」を選択すると、参加前、登録メールアドレスに参加確認メールが送信されます。

subscribe による参加の方法は、メール本文に下記内容を記載し、majordomo@ドメイン名 宛てに送信します。

```
subscribe メーリングリスト名 [登録メールアドレス]
```

### 退会方法

unsubscribe コマンドによるメーリングリスト退会方法の設定を行います。

「本人のみ」を選択した場合、コマンドメール送信者のアドレスのみ退会できます。

「管理者の承認が必要」を選択した場合、管理者の承認を受けた後退会できます。

「制限なし」を選択した場合、他人のアドレスを無条件で退会させることができます。

unsubscribe による退会の方法は、メール本文に下記内容を記載し、majordomo@ドメイン名 宛てに送信します。

```
unsubscribe メーリングリスト名 [登録メールアドレス]
```

### 参加者一覧取得

who コマンドによる参加者一覧取得の制限を設定します。

## 5. メーリングリスト

「可能」を選択した場合、誰もがこのメーリングリストのメンバーを検索できます。

「不可」を選択した場合、誰にもこのメーリングリストのメンバーを検索させません。

「メンバーのみ」を選択した場合、メンバーのみこのメーリングリストのメンバーを検索できます。

who によるメンバー一覧を取り寄せの方法は、メール本文に下記内容を記載し、majordomo@ドメイン名宛てに送信します。

```
who メーリングリスト名
```

### 参加リスト一覧取得

which コマンドによる参加リスト一覧取得の制限を設定します。

「可能」を選択した場合、誰もがこのメーリングリスト名を検索できます。

「不可」を選択した場合、誰にもこのメーリングリスト名を検索させません。

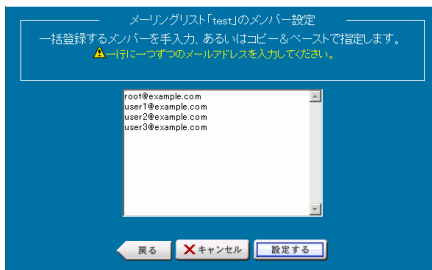
「メンバーのみ」を選択した場合、メンバーのみこのメーリングリスト名を検索できます。

但し、「投稿者制限」を「管理者のみ」にした場合は、検索の対象となりません。

which による参加メーリングリストの取り寄せの方法は、メール本文に下記内容を記載し、majordomo@ドメイン名宛てに送信します。

```
which [メールアドレス]
```

設定が終わりましたら、「進む」ボタンをクリックし「メンバー設定」画面に移ります。



「メンバー設定」画面では、このメーリングリストに参加させたいメンバーのメールアドレスを設定します。

1つのメールアドレスにつき、1行で入力してください。

メーリングリスト作成に必要な設定は以上です。設定が問題なければ、「設定する」ボタンをクリックして設定をファイルに反映させます。

## 3. テンプレート設定

### ■ テンプレート設定

ここでは、新規にメーリングリストを作成する際に初期値として利用するテンプレートを設定します。

テンプレートの設定を行うには、「テンプレート設定」をクリックします。

テンプレート設定

メーリングリストを作成する際に利用するテンプレートを設定します。

投稿者制限

- メンバーのみ
- 管理者のみ
- 制限なし
- 制限あり
- 保存する

最大メッセージサイズ

制限あり  バイトまで

アーカイブ

保存しない

保存する

コマンドメールの設定

参加方法   参加確認を行う

退会方法

参加者一覧取得

参加リスト一覧取得

設定項目のそれぞれの説明は、「メーリングリスト作成」の説明をご覧ください。



## 6. DNS サーバー

## 6. DNS サーバー

### 1. レコード管理

現在設定されているホスト情報を編集・管理します。

#### ■ ホスト情報の管理

「一覧」ボタンをクリックすると、ホスト情報の管理画面が表示されます。

ゾーン「example.com」のレコード管理  
このゾーンに新規レコードを追加したり、レコードの削除を行うことができます。

レコード追加

レコード	TTL	レコード種別	レコードの値	
example.com		IN A		追加

レコードリスト

レコード	TTL	レコード種別	レコードの値	
example.com	3600	IN NS	example.com.	削除
example.com	3600	IN A	202.211.133.181	削除

戻る  設定する

選択したドメイン名に属する、ホスト名の一覧が表示されます。

ホストを削除する場合は「削除」ボタンをクリックします。「取消」ボタンに切り替わります。削除を取り消す場合は「取消」ボタンをクリックします。

「戻る」ボタンをクリックしてドメイン名の一覧画面に戻ります。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 7. アカウント

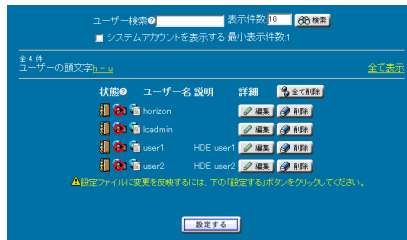
## 7. アカウント

### 1. ユーザー管理

ユーザーアカウントを編集、削除します。

#### ■ ユーザーの検索

ユーザーアカウントを検索します。



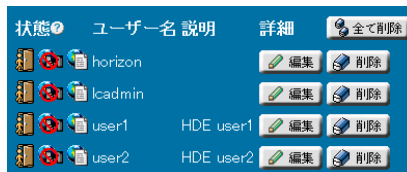
「ユーザー検索」に検索キーワードを入力します。

一度に表示する検索結果の最大件数を変更する場合は「表示件数」の値を変更します。

「検索」ボタンをクリックして検索を実行します。又、ユーザー名の頭文字で検索する場合は「ユーザーの頭文字」から選択します。全てのユーザーを表示させる場合は「全て表示」をクリックします。

#### ■ ログイン/メール/FTP の許可状況

ユーザーのログイン/メール/FTP の許可状況が表示されます。なお、バーチャルドメインとしてメール/FTP が許可されていない場合、メール/FTP の許可状況そのものが表示されません。



ログイン/メール/FTP の許可状況を変更する場合は、「編集」ボタンをクリックして該当項目を変更します。詳細は後述のユーザー設定変更を参照ください。

## ■ ユーザー設定の編集

アカウントを編集する場合は、「編集」ボタンをクリックします。

アカウント編集画面が表示され、以下の項目について設定ができます。

## ● ユーザー設定変更

ユーザーアカウントの基本的な設定を行います。

パスワードを変更する場合は、「パスワードを変更する」を選択し、「パスワード」にパスワードを入力します。

必要に応じて「追加情報(本名など)」を入力します。

この他に変更する項目があれば、他のタブをクリックします。

なければ「OK」ボタンをクリックして、ユーザー一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## ● メール転送設定

配送されたメールを、他のメールアドレスへ転送するための設定を行います。

なお、ドメインで提供するサービスとしてメールサーバーが選択されていない場合、この設定画面は表示されません。

転送先となるアドレスを「メールの転送先」に入力します。

複数のメールアドレスを指定する場合は、半角スペースか、カンマで区切るか、1つずつ改行して入力することで登録できます。

転送するメールを、サーバーに保存しておきたい場合は、「メールの転送を行う場合に、このサーバーのメールプールにも電子メールを残す」を選択します。

この他に変更する項目があれば、他のタブをクリックします。

なければ「OK」ボタンをクリックして、ユーザー一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## ● メール設定

メールパスワードなどメールの基本的な設定を行います。

## 7. アカウント

なお、ドメインで提供するサービスとしてメールサーバーが選択されていない場合、この設定画面は表示されません。

パスワードを変更する場合は、「パスワードを変更する」を選択し、「パスワード」にパスワードを入力します。

メールを利用不可に変更する場合は、メールで「利用不可」を選択します。

メールの認証を APOP だけに限定してメールを利用可能にする場合は、メールで「APOP のみで認証」を、POP でも APOP でもメールを利用可能にする場合は、「POP 及び APOP で認証」を選択します。

この他に変更する項目があれば、他のタブをクリックします。

なければ「OK」ボタンをクリックして、ユーザー一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

### ● 制限設定

シェルや FTP の利用、アカウントの有効期限、ホーム領域やメールスプール領域の制限設定を行います。

シェルの利用を許可する場合は、シェルのメニューから利用するシェルを選択するか、「その他」を選択してシェルをフルパスで入力します。

シェルの利用を許可しない場合は、シェルで「利用不可」を選択します。

FTP の利用を許可する場合は FTP で「利用可」を、許可しない場合は「利用不可」を選択します。

なお、ドメインで提供するサービスとして FTP サーバーが選択されていない場合は設定できません(FTP は利用できません)。

アカウント有効期限を設定する場合は有効期限を年月日で指定し、設定しない場合は「無期限」を選択します。

ホーム領域制限を設定する場合は、「警告容量」と「最大容量」に制限値を入力します。なお、ディスク使用容量制限が有効でない場合は設定できません。

ホーム領域制限を設定しない場合は、「警告容量」と「最大容量」の制限値を空にします。



ドメインに最大ディスク容量の制限が設定されている場合、この制限を越えることはできません。

メールスプール領域制限を設定する場合は、制限値を入力します。

メールスプール領域制限を設定しない場合は、制限値を空にします。

なお、ドメインで提供するサービスとしてメールサーバーが選択されていない場合は設定できません。



ドメインにメールスプール容量の制限が設定されている場合は、この制限を越えることはできません。

この他に変更する項目があれば、他のタブをクリックします。

なければ「OK」ボタンをクリックして、ユーザー一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## ■ ユーザーの削除

既存のユーザーを削除します。

ユーザー一覧画面で「削除」ボタンをクリックします。削除を取りやめたい場合はもう一度ボタン(取り消しボタン)をクリックします。

画面に表示されているユーザーを全て削除する場合は、「全て削除」ボタンをクリックします。取りやめたい場合は削除と同様にもう一度ボタン(取り消しボタン)をクリックします。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 7. アカウント

### 2. ユーザー追加

新規にユーザーを追加します。ユーザー追加画面には、テンプレート設定で指定した値が初期値として表示されます。あらかじめテンプレート設定を行うことによりユーザー追加がスムーズに行えます。テンプレート設定を行っていない場合は先にテンプレート設定を行うことをお勧めします。

#### ■ ユーザーの追加

追加するユーザー情報の設定を行います。

ユーザー追加  
あと945人のユーザーを追加することができます。

ユーザー名(ログイン名)

パスワード

パスワード(再入力)

グループ ログイン名と同じにする ▼

追加情報(本名など)

シェル

- /bin/bash ▼
- 利用不可
- その他

メール

- POP及びAPOPで認証
- POPのみで認証
- APOPのみで認証
- 利用不可

FTP

- 利用可
- 利用不可

アカウント有効期限

- 無制限
- 年--月--日

ホーム領域制限 容量制限は利用できません。

メールスプール領域制限  MBytes

設定する

「ユーザー名(ログイン名)」、「パスワード」を入力します。

必要に応じて「追加情報(本名など)」を入力します。

シェルの利用を許可する場合は、シェルのメニューから利用するシェルを選択するか、「その他」を選択してシェルをフルパスで入力します。

シェルの利用を許可しない場合は、シェルで「利用不可」を選択します。

メールの認証を APOP だけに限定してメールの利用を許可する場合はメールで「APOP のみで認証」を、POP でも APOP でもメールの利用を許可する場合は「POP 及び APOP で認証」を選択します。

メールの利用を許可しない場合は、メールで「利用不可」を選択します。

なお、ドメインで提供するサービスとしてメールサーバーが選択されていない場合は設定できません。

FTP の利用を許可する場合は FTP で「利用可」を、許可しない場合は「利用不可」を選択します。



サーバー管理者よりシェルの制限が行われている場合、シェルは利用できません。

なお、ドメインで提供するサービスとして FTP サーバーが選択されていない場合は選択できません(FTP は利用できません)。

アカウント有効期限を設定する場合は有効期限を年月日で指定し、設定しない場合は「無期限」を選択します。

ホーム領域制限を設定する場合は、「警告容量」と「最大容量」に制限値を入力します。なお、ディスク使用容量制限が有効でない場合は設定できません。

ホーム領域制限を設定しない場合は、「警告容量」と「最大容量」の制限値を空にします。



ドメインにディスク容量の制限が設定されている場合は、この制限を越えることはできません。

メールスプール領域制限を設定する場合は、制限値を入力します。

メールスプール領域制限を設定しない場合は、制限値を空にします。

なお、ドメインで提供するサービスとしてメールサーバーが選択されていない場合は設定できません。



ドメインにディスク容量の制限が設定されている場合は、この制限を越えることはできません。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 7. アカウント

### 3. CSV一括ユーザー登録

このバーチャルドメインにユーザーを一括して登録します。

#### ■ ユーザーの一括追加

ユーザーを一括して登録します。

The screenshot shows a blue-themed web interface for user registration. It is divided into two main sections. The top section is titled 'ファイルをアップロードしてユーザーを追加する' (Add users by uploading a file). It contains a sub-header '一括登録するユーザーの情報をテキストファイルに保存し、そのファイルをアップロードすることでユーザーを追加します。' (Save the information of the users to be registered in a text file, and upload the file to add users.) Below this, there is a warning icon and text: '▲ファイルやテキストの書き方が間違っていると、既に存在するユーザーを追加しようとした際には、エラーの内容を警告メッセージが表示されます。この場合、ユーザー追加は一切行われません。エラーメッセージを確認し、はじめてやり直してください。' (If the file or text format is incorrect, when trying to add users that already exist, an error message will be displayed. In this case, no user addition will occur. Please check the error message and start over from the beginning.) There is a '参照' (Reference) button. Below this is a note: '■ 平文パスワードのかわりに、ハッシュ化パスワードを指定する(※APIではパスワードを設定しなおすまで使用できません)' (Instead of plain text password, specify a hashed password. (Note: API does not allow password change until the password is set)). The bottom section is titled '手動でまとめてユーザーを追加する' (Add users manually). It has a sub-header '一括登録するユーザーを手入力、あるいはコピー&ペーストで指定します。' (Specify the users to be registered by manual entry, copy & paste, etc.) Below this, there is the same warning icon and text as in the top section. There is a '参照' (Reference) button. Below this is the same note as in the top section.

ユーザーリストのファイルをアップロードする場合は、「ファイルをアップロードしてユーザーを追加する」に、ファイルのパスを入力するか、「参照」ボタンをクリックし、ファイルの指定ウインドウからファイルの場所を指定します。

手入力の場合は「手動でまとめてユーザーを追加する」にユーザー情報を入力します。

## ● 一括管理の入力形式

1. ユーザー名 (必須)
2. 平文パスワード、省略時はランダムで決定されます。(追加後に表示されます。)
3. 本名などの付加情報
4. アカウントが所属するグループ名 (無視されます。)
5. ログインシェル
6. 転送メールアドレス
7. メールパスワード
8. メール設定 (-1:不可/0:POP と APOP/1:APOP/2:POP)
9. ユーザーの有効期限 (YYYY/MM/DD)
10. FTP ログインの可否 (0 : 可 / 1 : 不可)
11. メールプール制限容量 (Bytes)
12. ディスク制限容量 (kB)
13. iノード制限数
14. ディスク超過許容量 (kB)
15. iノード超過許容数



ひらがなや漢字など、文字コードはシステムにあわせる必要があります。

「追加」ボタンをクリックして登録します。



半角カナ / 全角文字がファイル名、またはパスに含まれる場合、アップロードが正常に実行できないことがあります。

## 7. アカウント

### 4. CSV一括ユーザー削除

このバーチャルドメインに登録されているユーザーを一括して削除します。

#### ■ ユーザーの一括削除

ユーザーを一括して削除します。

ユーザーリストのファイルをアップロードする場合は、「ファイルをアップロードしてユーザーを削除する」、にファイルのパスを入力するか「参照」ボタンをクリックしファイルの指定ウィンドウからファイルの場所を指定します。

手入力の場合は「手でまとめてユーザーを削除する」にユーザー情報を入力します。



入力形式は、「CSV一括ユーザー登録」の『一括管理の入力形式』をご参照ください。

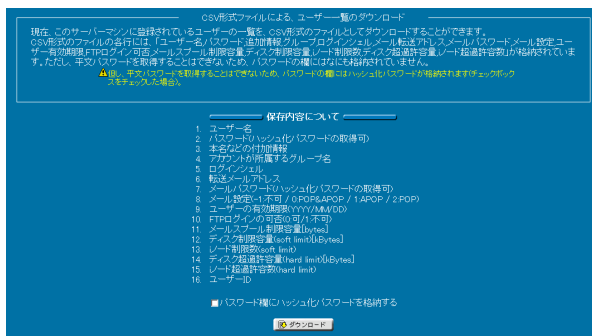
「削除」ボタンをクリックして削除を実行します。



半角カナ／全角文字がファイル名、または、パスに含まれる場合アップロードが正常に実行できないことがあります。

## 5. CSV 一括ユーザー保存

このバーチャルドメインに登録されているユーザーの情報を CSV 形式のファイルで保存します。



このファイルには、パスワード以外のユーザー情報が記録されています。「ダウンロード」ボタンをクリックし、保存場所を指定してダウンロードします。

### ■ ユーザーリストの保存

サーバーに登録されているユーザーリストを CSV 形式のファイルで保存します。  
ユーザーリストファイルには、パスワード以外のユーザー情報が記録されています。  
「ダウンロード」ボタンをクリックし、保存場所を指定して、ダウンロードします。



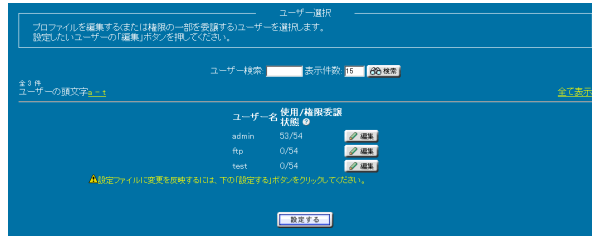
ファイルの形式は、「CSV 一括ユーザー登録」の『一括管理の入力形式』をご参照ください。

## 7. アカウント

### 6. アクセス権限設定

ユーザーごとに利用を許可する(権限を委譲する)HDE Controller のメニュー設定(アクセス権限設定)を行います。

#### ■ ユーザーの検索



ユーザーアクセス権限を管理するユーザーを検索します。

「ユーザー検索」に検索したいユーザー名の一部または全てを検索キーワードに入力します。

検索結果の表示件数を設定する場合は、「表示件数」に一度に表示する件数を入力します。

「検索」ボタンをクリックして検索を実行します。

ユーザー名の頭文字から検索する場合は、「ユーザーの頭文字」からアルファベットの範囲をクリックします。

全て表示する場合は、「全て表示」をクリックします。

## ■ アクセス権限設定



アクセス権限の変更を行う場合は、「編集」ボタンをクリックします。

ユーザーの運用メニュー設定画面が表示されます。

「使用/権限委譲状態」には、各メニューに属する権限の総数と、現在委譲されている権限の数が表示されます。

メニューに属する全ての権限を委譲する場合は「全て」ボタンをクリックします。

(特定のユーザーに権限を委譲すると危険なものについては選択できません。)

委譲されている権限を全て取り消す場合は、「削除」ボタンをクリックします。

メニューに属する権限を個別に設定する場合は、「カスタム」ボタンをクリックします。「カスタム」をクリックすると運用メニューに属する権限の以上画面が表示されます。

委譲する権限を選択、または、取り消す権限の選択を解除し、「OK」ボタンをクリックします。

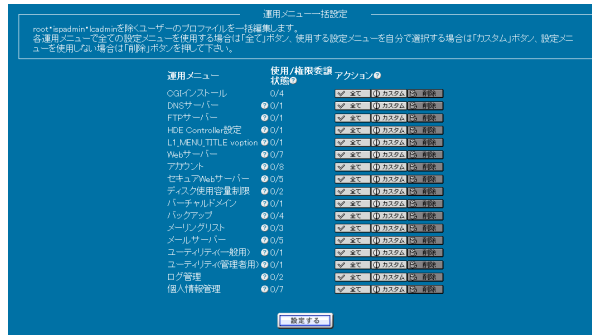
運用メニュー設定画面に戻り、更に「戻る」ボタンをクリックしてユーザー選択画面に戻ります。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 7. アカウント

### 7. アクセス権限一括設定

バーチャルドメイン管理者 (admin@ドメイン名) を除くユーザーに利用を許可する (権限を委譲する) HDE Contorller のメニュー設定 (アクセス権限設定) を一括編集します。



各運用メニューで全ての設定メニューを使用する場合は「全て」ボタン、使用する設定メニューを自分で選択する場合は「カスタム」ボタン、設定メニューを使用しない場合は「削除」ボタンを押して下さい。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 8. テンプレート設定

ユーザー追加画面の初期値として表示する値の設定を行います。同じような設定を持つユーザーを効率的に追加できます。

ユーザーテンプレート設定  
ユーザーの追加時のデフォルトテンプレートを設定します。

シェル  /bin/bash  
 利用不可  
 その他

メール  POP及びAPOPで認証  
 POPのみで認証  
 APOPのみで認証  
 利用不可

FTP  利用可  
 利用不可

アカウント有効期限  無制限  
 年 月 日

ホーム領域制限 容量制限は利用できません。  
メールスプール領域制限 MBytes

設定する

シェルの利用を許可する場合は、シェルのメニューから利用するシェルを選択するか、「その他」を選択してシェルをフルパスで入力します。

シェルの利用を許可しない場合は、シェルで「利用不可」を選択します。

メールの認証を APOP だけに限定してメールの利用を許可する場合はメールで「APOP のみで認証」を、POP だけに限定してメールの利用を許可する場合はメールで「POP のみで認証」を、POP でも APOP でもメールを利用可能にする場合は「POP 及び APOP で認証」を選択します。

メールの利用を許可しない場合は、メールで「利用不可」を選択します。

なお、ドメインで提供するサービスとしてメールサーバーが選択されていない場合は設定できません。

FTP の利用を許可する場合は FTP で「利用可」を、許可しない場合は「利用不可」を選択します。

なお、ドメインで提供するサービスとして FTP サーバーが選択されていない場合は選択できません(FTP は利用できません)。

アカウント有効期限を設定する場合は有効期限を年月日で指定し、設定しない場合は「無期限」を選択します。

ホーム領域制限を設定する場合は、「警告容量」と「最大容量」に制限値を入力します。なお、ディスク使用容量制限が有効でない場合は設定できません。

ホーム領域制限を設定しない場合は、「警告容量」と「最大容量」の制限値を空にします。



ドメインに最大ディスク容量の制限が設定されている場合は、この制限を越えることはできません。

## 7. アカウント

メールプール領域制限を設定する場合は、制限値を入力します。

メールプール領域制限を設定しない場合は、制限値を空にします。

なお、ドメインで提供するサービスとしてメールサーバーが選択されていない場合は設定できません。



ドメインにメールプール容量の制限が設定されている場合は、この制限を越えることはできません。

「設定する」ボタンをクリックし、設定を終了します。

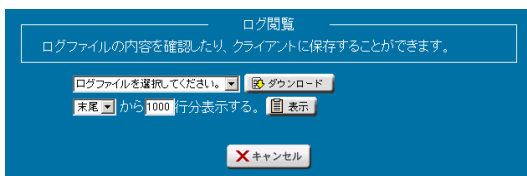
## 8. ログ管理

## 8. ログ管理

### 1. ログ閲覧

ログの管理はサーバー管理者の最も重要な仕事の一つです。「ログ管理」では、各種サービスのログを確認したり、監視したりすることができます。

各サービスが記録したログファイルを開覧します。



#### ■ ログ閲覧

「ログ閲覧」のメニューをクリックすると、ログ閲覧画面が表示されます。

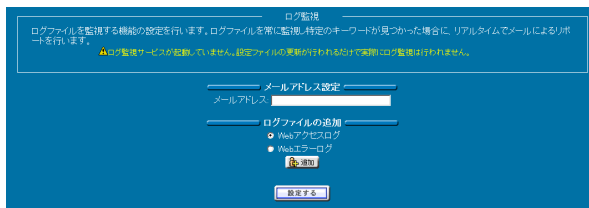
ここでは、ログファイルの内容を表示します。またクライアント側にダウンロードしてログを保存することができます。

プルダウンメニューより閲覧したいログファイルを選択します。

次に、プルダウンメニューより「先頭」もしくは「末尾」からのログファイルの行数を指定します。

「ダウンロード」または「表示」を選択し、ログを開覧します。

## 2. ログ監視



Linux でサーバーを立てている場合バックグラウンドで実行された結果はすべてログファイルに記録されます。何か障害が起きた場合の原因究明や日々のサーバーの利用状況の調査、悪意のあるクラッカーからのアクセスの解明などログファイルの監視は様々な用途に応用でき、サーバーの運用管理には欠かせない機能となっています。

ログ監視設定では `logsurfer` を用いたログ監視の設定を行うことができます。`logsurfer` は常にログの監視を行い特定のキーワードを検出するとその結果をリアルタイムでメールによるレポートを行います。

### ● メールアドレスの設定

「メールアドレス」にメールアドレスを指定します。ここで登録されたメールアドレスに対してレポート結果がリアルタイムで送信されます。

### ● ログファイルの追加

監視する対象のログファイルの追加を行います。既にいくつかの典型的なログファイルが選択肢にありますのでこの中から選ぶか、あるいはログファイル名を直接してしてログファイルを追加してください。ログファイルを追加するとルール編集画面になります。

### ● ルールの設定

監視するログファイルに対するルールの追加・編集を行います。ここで指定したルールが上から順に評価され、ルールにマッチするとアクションが実行されます。一度ルールが評価されるとそれ以降のルールは評価されません。ここで指定されたルールはログファイルの 1 行毎に評価されます。

## 8. ログ管理

### ■ ログ監視のルール

ルールには「マッチする正規表現」「マッチしない正規表現」「アクション」の 3 つの要素があります。それぞれの要素は以下のようになります。

マッチする正規表現 - マッチさせるための正規表現を指定します。ここで指定した正規表現にマッチした行が見つかったらアクションが実行されます。

マッチしない正規表現 - マッチさせたくない正規表現を指定します。「マッチする正規表現」でマッチしてもここで指定した正規表現がマッチした場合、アクションは実行されません。 "-"または空文字(何も入力しない)にすると何も指定しません。

#### アクション

アクションには「無視」「メール送信」の 2 種類あります。

##### 無視

何もしません。以降のルールを適用させたくない場合に使用します。

##### メール送信

メールを送信します。マッチした行の内容が送信されます。

## 9. バックアップ

## 9. バックアップ

### 1. スケジュール追加

バックアップのスケジュールを追加します。

#### ■ スケジュールの追加

バックアップスケジュールを追加します。  
指定したバックアップ領域、スケジュールに従って定期的にバックアップを実行します。

スケジュールの追加

バックアップする領域

このバックアップ予定につける題名

バックアップしない領域を選択してください

- ユーザー領域 /home/\$(virtualdomain)/example.com
- メール領域 /home/\$(popmail)/domains/example.com
- その他の領域 /home/\$(hostname)/example.com

キャンセル 進む

「このバックアップ予定につける題名」にスケジュールの設定名を入力します。

バックアップしたい領域を選択します。

既にリストにある領域以外を指定する場合は「その他の領域」にパスを入力するか「ディレクトリ選択」ボタンをクリックし、ディレクトリ選択ウインドウで場所を指定します。

「進む」ボタンをクリックして次の設定へ進みます。



保存されるファイルのアーカイブ形式は **tgz (tar+gzip)** 形式になります。」

バックアップのスケジュールを指定します。

バックアップスケジュール

バックアップの日程

- 毎日
- 毎週何曜日
- 毎月何日

バックアップの時間

真夜中はAM時、昼はPM時で指定してください

バックアップファイル最大保存数

個まで保存されます

戻る キャンセル 進む

「バックアップの日程」を「毎日」「毎週何曜日」「毎月何日」から選択します。

「毎週何曜日」を選択した場合は曜日の選択項目が表示されます。

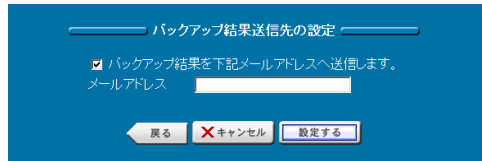
「毎月何日」を選択した場合は、日付の選択項目が表示されます。

日程を正しく指定します。

実行する時間を「AM」「PM」何時、何分か選択します。

最大保存数を指定します(1~999 世代間で指定)

「進む」ボタンをクリックして、次の設定へ進みます。



バックアップ結果送信先の設定

バックアップ結果を下記メールアドレスへ送信します。  
メールアドレス

戻る キャンセル 設定する

バックアップ結果の報告送信先を設定します。

メールによる報告を設定する場合は、「バックアップ結果を下記メールアドレスへ送信します。」を選択します。メールアドレスを入力します。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 9. バックアップ

### 2. 今すぐバックアップ

バックアップファイルを直ちに保存します。

#### ■ サーバー内に保存



バックアップファイルをサーバー内に、直ちに保存します。

バックアップする領域を選択します。

既にリストにある領域以外を指定する場合は、「その他の領域」にパスを入力するか「ディレクトリ選択」ボタンをクリックし、ディレクトリ選択画面で指定します。

その他の領域を複数指定する場合は、「その他の入力欄を増やす」をクリックすると、入力欄を追加することができます。

「実行」ボタンをクリックして保存を実行します。

#### ■ クライアント内に保存



バックアップファイルをクライアント内に直ちに保存します。(https 経由)

バックアップする領域を選択します。

既にリストにある領域以外を指定する場合は「その他の領域」にパスを入力するか、「ディレクトリ選択」ボタンをクリックし、ディレクトリ選択画面で指定します。

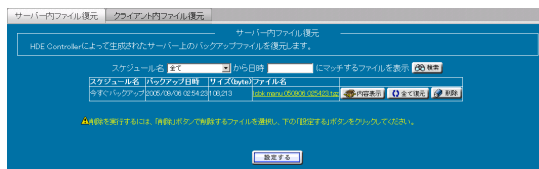
「実行」ボタンをクリックしてバックアップを実行します。

保存ダイアログが表示されたら保存場所を指定しバックアップを完了します。

### 3. バックアップファイルの復元

HDE Controller で生成されたバックアップファイルを復元します。

#### ■ サーバー内ファイルの復元／管理



サーバー内に保存されているバックアップファイルを復元／管理します。

バックアップファイルを検索する場合は、「スケジュール名」を選択し、検索条件となる日時を、「日時」に入力します。「検索」ボタンをクリックして検索を実行します。

バックアップファイルの内容を全て復元する場合は、「全て復元」ボタンを、クリックします。

バックアップファイルを削除する場合は、「削除」ボタンをクリックします。削除を取り消す場合は、再度ボタン（取消ボタン）をクリックします。削除の場合のみ、「設定する」ボタンをクリックして実行します。

復元するファイルを選択する場合は、「内容表示」ボタンをクリックし、バックアップファイル内容を表示します。

表示されたファイル/ディレクトリをすべて選択解除する場合は、「全てチェックを外す」ボタンをクリックします。

表示されたファイル/ディレクトリをすべて選択する場合は、「全てチェックする」ボタンをクリックします。

選択されたファイルを直ちに復元する場合は、「復元」ボタンをクリックします。



復元後、ディスクに存在する同名のファイルが、直ちに上書きされます。

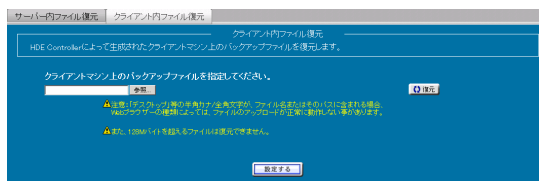


保存形式が **tgz** 形式のバックアップファイルの復元が可能です。



サイズの大きなバックアップファイルを復元する場合には、処理に時間がかかります。Web ブラウザのタイムアウトで正常に処理されないことがあります。

#### ■ クライアント内ファイル



クライアント内に保存されているバックアップファイルを復元します。

バックアップファイルが保存されている場所のパスを入力するか、「参照」ボタンをクリックし、保存場所指定画面でファイルの場所を指定します。

## 9. バックアップ

「復元」ボタンをクリックして復元を実行します。



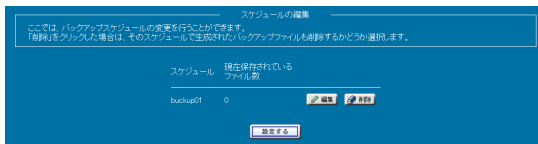
バックアップファイルのファイル名や、ファイルの存在するパスの中に、半角カナ／全角文字が含まれている場合、Web ブラウザの種類等によりファイルのアップロードが正常に出来ない場合があります。



指定するバックアップファイルは HDE Controller で保存されたものでなければなりません。

## 4. スケジュール編集

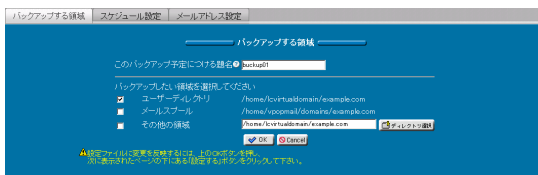
保存されているバックアップスケジュールの編集・削除を行います。



### ■ スケジュールの編集

「編集」ボタンをクリックすると編集画面が表示され「バックアップする領域」「スケジュール設定」「保存先設定」の 3 つのタブが表示されます。

#### ● バックアップする領域



「バックアップする領域」メニューでは、スケジュールの題名、バックアップする領域を管理／変更することができます。

題名を変更する場合は「このバックアップ予定につける題名」を変更します。

領域を変更する場合は、変更したい領域を選択します。

「OK」ボタンをクリックします。

スケジュール一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 9. バックアップ

### ● スケジュールの設定

「スケジュール設定」メニューでは、設定したスケジュールを変更します。



「バックアップの日程」を「毎日」「毎週何曜日」「毎月何日」から選択します。

「毎週何曜日」を選択した場合は曜日の選択項目が表示されます。

「毎月何日」を選択した場合は日付の選択項目が表示されます。

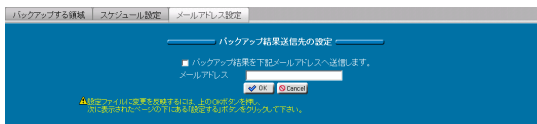
バックアップの時間を「AM」「PM」を選択し、時/分を指定します。

「OK」ボタンをクリックします。

スケジュール一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

### ● メールアドレス設定

「メールアドレス設定」メニューでは、バックアップ結果のメール送信先について設定します。



バックアップ結果をメールで報告する場合は、「バックアップ結果を下記メールアドレスへ送信します。」を選択します。

メールアドレスを入力します。

「OK」ボタンをクリックします。

スケジュール一覧画面に戻り「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 10. ディスク使用容量制限

## 10. ディスク使用容量制限

### 1. 容量制限一覧

容量制限を適用しているパーティションから、ユーザー毎の容量制限を行います。

#### ■ 容量制限の一覧

容量制限を設定するパーティションを選択します。

「選択」ボタンをクリックして次の設定へ進みます。

ユーザー 選択	容量制限値		現在の使用状況			編集
	サイズ	レコード数	使用量	比率	使用レコード数	
500 test	制限無し	制限無し	112 KB /	-	29 node /	編集
508 lspadmin	制限無し	制限無し	112 KB /	-	29 node /	編集
509 lcadmin	制限無し	制限無し	112 KB /	-	29 node /	編集
510 lcvirtualldomain	制限無し	制限無し	112 KB /	-	29 node /	編集
507 qmails	制限無し	制限無し	0 KB /	-	0 node /	編集
506 qmailr	制限無し	制限無し	0 KB /	-	0 node /	編集
505 qmailq	制限無し	制限無し	0 KB /	-	0 node /	編集
504 qmaild	制限無し	制限無し	0 KB /	-	0 node /	編集
502 qmaili	制限無し	制限無し	0 KB /	-	0 node /	編集
503 qmailp	制限無し	制限無し	0 KB /	-	0 node /	編集

10 毎に表示: 1-10 (11/41)      合計で 11 個の該当アカウントが存在します      一度に表示する件数: 10 目表示

■ システムアカウントも含めて表示

キャンセル

ユーザー毎の容量制限編集を行います。

一度に表示する件数を増やす場合は、「一度に表示する件数」の数値を変更し、「表示」ボタンをクリックします。

容量制限を編集するユーザーの「編集」ボタンをクリックします。

容量制限の設定画面が表示されます。

「容量制限(QUOTA)値」「超過許容サイズ」、それぞれについて、サイズ、iノードによる容量制限を設定します。

「OK」をクリックして、「ユーザーQUOTA 編集」画面に戻ります。

超過許容サイズは、容量制限値を一時的に超えて使用することを許可する最大サイズとなります。

必ず容量制限値より大きな値を設定して下さい。

「設定する」ボタンをクリックして、設定を完了します。

## 2. 容量制限一括設定

容量制限の設定を一括して行います。

### ■ 容量制限の一覧

容量制限を設定するパーティションを選択します。

「選択」ボタンをクリックして次の設定へ進みます。

アカウントの選択画面が表示されます。

アカウントの選択

複数のユーザーの容量制限を一括で行います。容量制限を適用したいアカウントの左端のボタンをチェックしてから次の画面に移動してください。

対象ディスクパーティション / home

以下からデータを抽出して表示させることができます。

データの抽出  抽出しない

ユーザー	容量制限値	現在の使用状況	操作
test	制限無し	制限無し	112 KB / - 28 node / -
issadmin	制限無し	制限無し	112 KB / - 28 node / -
loadadm	制限無し	制限無し	112 KB / - 28 node / -
icvirtuakobain	制限無し	制限無し	112 KB / - 28 node / -
qma0	制限無し	制限無し	0 KB / - 0 node / -
qma1	制限無し	制限無し	0 KB / - 0 node / -
qma2	制限無し	制限無し	0 KB / - 0 node / -
qma3	制限無し	制限無し	0 KB / - 0 node / -
qma4	制限無し	制限無し	0 KB / - 0 node / -
qma5	制限無し	制限無し	0 KB / - 0 node / -
qma6	制限無し	制限無し	0 KB / - 0 node / -

合計で 11 個の該当アカウントが存在します

一度に表示する件数

アカウントを検索する場合は、検索条件として、「データの抽出」をする場合は、メニューから抽出内容を選択し、検索キーワードを入力して、検索の一致形式を選択します。

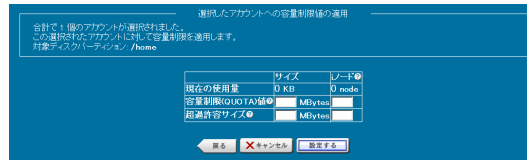
「検索」ボタンをクリックして、検索を実行します。

検索結果の表示件数を変更する場合は、「一度に表示する件数」の値を変更し、「表示」ボタンをクリックします。

容量制限を設定するユーザーを選択し、「進む」ボタンをクリックして、次の設定へ進みます。

## 10. ディスク使用容量制限

容量制限の設定画面が表示されます。



	サイズ	iノード
現在の保留量	0 KB	0 node
容量制限(QUOTA)値	<input type="text"/>	<input type="text"/>
超過許容サイズ	<input type="text"/>	<input type="text"/>

「容量制限(QUOTA)値」「超過許容サイズ」、それぞれについて、サイズ、iノードによる容量制限を設定します。

「OK」をクリックして、「ユーザーQUOTA 編集」画面に戻ります。

超過許容サイズは、容量制限値を一時的に超えて使用することを許可する最大サイズとなります。

必ず容量制限値より大きな値を設定して下さい。

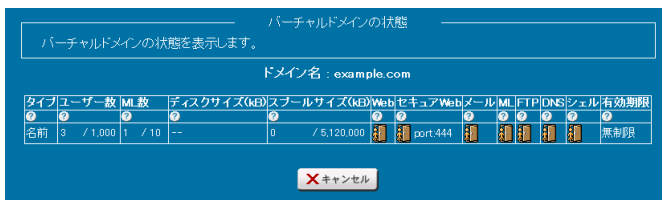
## 11. バーチャルドメイン管理

## 11. バーチャルドメイン管理

### 1. バーチャルドメインの状態

このバーチャルドメインの現在の設定の概要が表示されます。

#### ■ ドメインの各種情報



このドメインに関する以下の情報を表示します。

ドメインタイプ	名前ベースドメインか IP ベースドメインかを表示します。
ユーザー数	現在の登録ユーザー数と登録可能ユーザー数を表示します。
ML数	現在の登録メーリングリスト数と登録可能メーリングリスト数を表示します。
ディスクサイズ	Web スペースを含むホームディレクトリ領域のサイズとその使用可能容量をキロバイトで表示します。
スプールサイズ	メールスプール領域のサイズとその使用可能容量をキロバイトで表示します。
Web	Web サービスが利用可能かどうかを表示します。
セキュア Web	セキュア Web サービスが利用可能かどうかを表示します。セキュア Web サービスで利用するポート番号も表示されます。
メール	メールサービスが利用可能かどうかを表示します。
ML	メーリングリストサービスが利用可能かどうかを表示します。
FTP	FTP サービスが利用可能かどうかを表示します。
DNS	DNS サービスが利用可能かどうかを表示します。
シェル	ドメインに属するユーザーのログインシェル変更可能かどうかを表示します。
有効期限	ドメインに属するユーザーのログイン有効期限に設定できる最大値を日付で表示します。

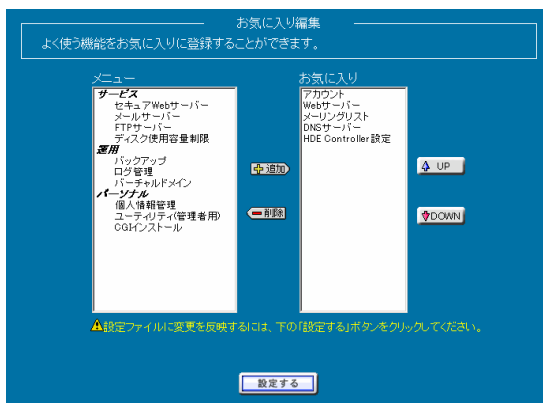
## *12. HDE Controller 設定*

## 12. HDE Controller 設定

### 1. お気に入り編集

HDE Controller でよく利用するメニューをお気に入りメニューとして登録することができます。

ここで登録されたメニューは常に管理画面の右上に小さいアイコンで表示されるようになり、必要な時にこれをクリックすることで、素早く目的の機能にアクセスすることが可能になります。



お気に入りにメニューを登録したい場合は、登録したいメニューを設定画面の左側のテキストエリアから選択し、「追加」ボタンをクリックします。

お気に入りからメニューを解除したい場合は、解除したいメニューを右側のテキストエリアから選択し、「削除」ボタンをクリックします。

登録したお気に入りの表示順序を変更したい場合は、変更したいメニューを選択し「UP」ボタン、または「DOWN」ボタンで移動させます。

全ての設定が完了したら「設定する」ボタンをクリックして設定を完了させます。



コントロール(Ctrl)キーを利用することで、テキストエリア上の複数のメニューを一度に選択することができます。

## 13. ユーティリティ

## 13. ユーティリティ

### 1. ファイルマネージャー

サーバーを利用するにあたってホームディレクトリをはじめ各ファイル・ディレクトリの管理を行う「ファイルマネージャー」を利用することができます。

#### ■ ファイルマネージャー

ログインしたユーザーのホームディレクトリが表示されます。



#### ● 検索方法

検索文字列のテキストボックスに検索したい文字を入力します。(検索したい文字の一部を入力し、検索することも可能です。)

「検索」ボタンをクリックします。



一度に表示する項目数はデフォルトでは 10 項目になっています。(数字を入力し、変更することも可能です。「全て表示」をクリックすると、カレントディレクトリの全てのファイルとディレクトリを表示します。)

#### ● ディレクトリの作成方法

ディレクトリ名を入力し、「新規作成」ボタンをクリックします。

カレントディレクトリのパーミッションによっては作成出来ない場合があります。その際画面右上に「カレントディレクトリにディレクトリを作成するための権限がありません」と表示されます。

また、全角文字や半角かな文字などを使用すると Linux でのアクセスが困難になったり不都合が発生したりする場合があります。

## ■ ファイルのアップロード

クライアントから Linux にファイルのアップロードをします。

「参照」ボタンをクリックし、クライアントマシンから目的のファイルを選択し、「アップロード」ボタンをクリックします。



カレントディレクトリのオーナーが自分でない場合(その際画面右上に「ファイルをアップロードするための権限がありません。」と表示されます。)や、同名のファイルが既に存在する場合はアップロードできません。

## ■ ファイルのダウンロード

表の中のアクションボタンをクリックします。「ファイルのダウンロード」画面が表示されるので、クライアントマシンの保存先を選択し、「保存」ボタンをクリックします。

読み込み権限がない場合にはダウンロードできません。その際、ボタンは薄いグレーで表示されます。

## ● パーミッションの変更

表の中のアクションボタンをクリックして設定します。

### 【名前】

ファイル名・ディレクトリ名です。長い名前は省略されます。正式な名前はマウスポインタを該当の項目に移動すると表示されません。

### 【サイズ】

ファイルのサイズ・ディレクトリのブロック数が表示されます。

通常、単位は Byte で表示されます。

大きな数字は kByte(1,024 バイト)・MByte(1,024 キロバイト)として表示されます。正確な数値は該当する項目にマウスポインタを移動すると表示されます。

### 【日付】

ファイル・ディレクトリの作成・更新日付です。該当項目にマウスポインタを移動するとより詳細に表示します。

## 13. ユーティリティ

### 【パーミッション】

ファイル・ディレクトリのパーミッションです。9桁の文字で表示されます。左から順番に下記のようになります。

- r** ファイルの作成者がファイルを読み込む権限があります。
- w** ファイルの作成者がファイルを書き込む権限があります。
- x** ファイルの作成者がファイルを実行する権限があります。ディレクトリの場合は該当ディレクトリに移動する権限になります。
  
- r** ファイルの作成グループがファイルを読み込む権限があります。
- w** ファイルの作成グループがファイルを書き込む権限があります。
- x** ファイルの作成グループがファイルを実行する権限があります。ディレクトリの場合は該当ディレクトリに移動する権限になります。
  
- r** 全てのユーザーがファイルを読み込む権限があります。
- w** 全てのユーザーがファイルを書き込む権限があります。
- x** 全てのユーザーがファイルを実行する権限があります。ディレクトリの場合は該当ディレクトリに移動する権限になります。

### 【アクション】

それぞれのファイル・ディレクトリに対して可能なアクションがアイコンで表現されています。ハイライト表示されている場合にその機能が利用出来ます。



ファイル・ディレクトリの情報を見ることができます。ファイルの変更をすることが可能な場合はパーミッションを変更することができます。



ファイル・ディレクトリの削除をします。ファイルのオーナーが自分でない場合は出てきません。ディレクトリの場合はディレクトリ内にファイル・ディレクトリが存在してはいけません。



ファイル・ディレクトリのダウンロードをします。読み込み権限が無い場合はダウンロードできません。

## 14. 個人情報管理

## 14. 個人情報管理

### 1. ログインパスワード

ユーザーのパスワードの設定を行います。

#### ■ パスワードの設定

パスワードの設定

ユーザー名(ログイン名): admin@example.com

現在のパスワード: \*\*\*\*\* 入力は \* で表示されます。

新しいパスワード: \*\*\*\*\*

新しいパスワード (再入力): \*\*\*\*\*

設定する

ユーザーのパスワードを変更します。

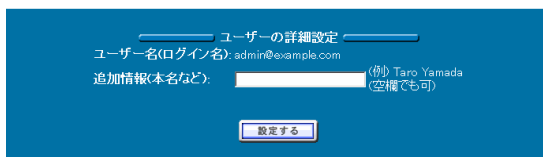
変更する場合は「現在のパスワード」と「新しいパスワード」を入力します。

「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。

## 2. 詳細設定

ユーザーの追加情報/シェルを設定します。

### ■ ユーザーの詳細設定



ユーザーの追加情報/シェルを設定します。

「追加情報」にユーザーの名前などコメントを必要に応じて入力/変更します。

シェルが使用できる場合は「使用するシェル」に/etc/shells に登録されているシェルが表示されます。使用するシェルを選択します。

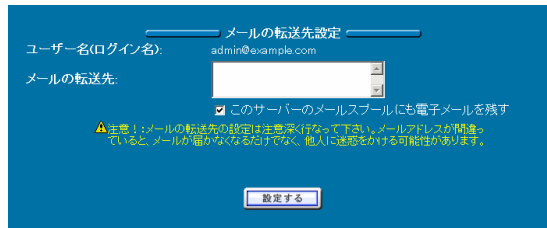
正しければ「設定する」ボタンをクリックして設定を完了します。

## 14. 個人情報管理

### 3. メール転送

ユーザーのメール転送先を設定します。

#### ■ メールの転送先設定



ユーザーのメール転送先を設定します。

「メールの転送先」に転送先メールアドレスを入力します。

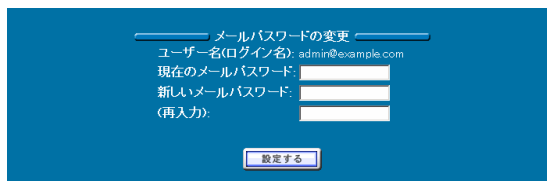
転送するメールをサーバーに保存する場合は「このサーバーのメールプールにも電子メールを残す」を選択します。

「設定する」ボタンをクリックして設定を終了します。

## 4. メールパスワード

ユーザーのメールパスワードの設定を行います。

### ■ メールパスワードの設定



The screenshot shows a blue-themed form titled "メールパスワードの変更" (Change Email Password). It displays the user's login name as "admin@example.com". Below this, there are three input fields: "現在のメールパスワード:" (Current email password), "新しいメールパスワード:" (New email password), and "(再入力):" (Re-enter). A "設定する" (Set) button is located at the bottom of the form.

ユーザーのメールパスワードを設定します。

メールパスワードを変更する場合は「現在のメールパスワード」と「新しいメールパスワード」を入力します。

正しければ「設定する」ボタンをクリックして設定を完了します。

## 14. 個人情報管理

### 5. 自動メール返信設定

ユーザーあてのメールに対し、自動的に返信を行う設定をします。

#### ■ 自動メール返信の設定

メールの自動返信設定

メールの自動返信設定を行います。長期にわたり、メールを受信出来ない場合などに利用します。

ユーザー名(ログイン名): admin

自動メール返信設定

■ 自動メール返信機能を有効にする

メーリングリストに参加している場合など、テキストとして自動返信メールは使用すべきでない場合があります。自動返信を設定することに問題がないかどうか確認してから使用して下さい。

返信メール設定

返信メール差出人: <admin@example.com>

返信メール件名:

返信メール本文:

メール本文は通常のテキスト文で送信します。HTMLタグ等は全てそのままの状態です。

設定する

自動メール返信を有効にする場合は、「自動メール返信機能を有効にする」を選択します。

返信メール差出人/返信メール件名/返信メール本文、を入力します。

「設定する」ボタンをクリックして、設定を終了します。



自動返信メールは、メーリングリストに参加している場合など、自動返信機能が問題になる場合があります。使用に問題がないか、必ず確認の上設定してください。

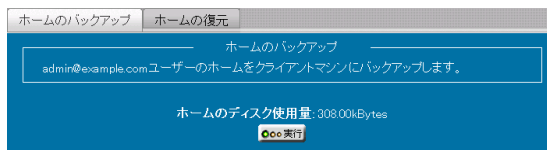


メール本文は、テキスト文で送信されます。HTMLタグ等は、テキストとしてそのままの状態が表示されます。

## 6. バックアップ/復元

ユーザーのホームディレクトリをバックアップ、または、バックアップファイルを復元します。

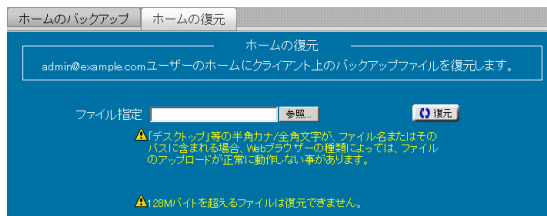
### ■ ホームのバックアップ



ホームディレクトリをバックアップする場合は、「実行」ボタンをクリックして、バックアップを実行します。  
保存ダイアログが表示されます。

保存を選択し、バックアップファイルをダウンロードします。

### ■ ホームの復元



クライアントコンピューター内に保存されているバックアップファイルを復元します。

「ファイル指定」に、バックアップファイルが保存されているパスを入力します。

ファイルを参照して指定する場合は、「参照」ボタンをクリックしファイル選択画面から指定します。



バックアップファイルは、「ホームのバックアップ」で生成された、**tgz** 形式のファイルを指定してください。



ファイル名、または、ファイルのパスに、半角カナ／全角文字が含まれている場合、Web ブラウザの種類によっては、正常にアップロードできないことがあります。

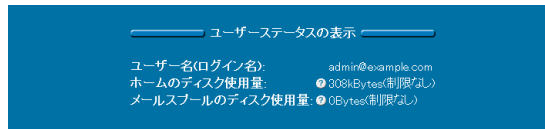
「復元」ボタンをクリックし、復元を実行します。

## 14. 個人情報管理

### 7. ユーザーステータス

ユーザー情報を表示します。

#### ■ ユーザーステータスの表示



HDE Controller にログインしているユーザーの、以下の情報を表示します。

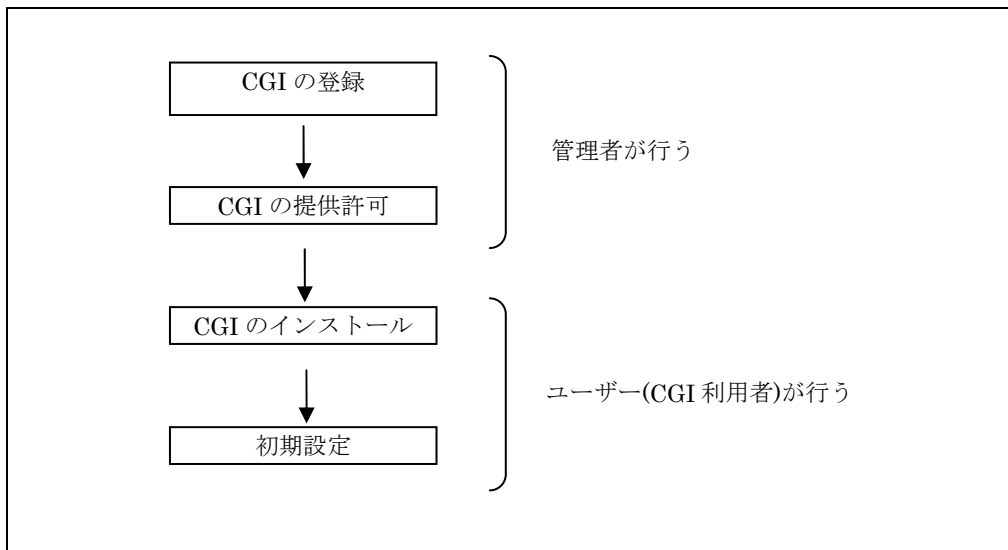
ユーザー名/ホームのディスク使用量/メールスプールのディスク使用量

## 15. CGI インストール

## 概要

ここでは CGI のインストールを行います。CGI をインストールして実際に使用できるようになるまでは以下のような流れになります。

### フローチャート



登録する CGI はあらかじめ規約に沿ってパッケージングを行っておく必要があります。パッケージングの詳細については、「CGI パッケージング」の項にて解説をします。

## 1. CGI 登録

CGI登録

運用するCGIのパッケージをアップロードし、登録します。パッケージは、HDE Controller独自の規約によって作成されたtar.gzファイルになります。

ファイル  参照...

実行

この画面では CGI パッケージの登録を行います。

「参照」ボタンを押してアップロードする CGI パッケージを指定し、「実行」ボタンを押すと、CGI パッケージの内容確認画面が表示されます。

内容確認

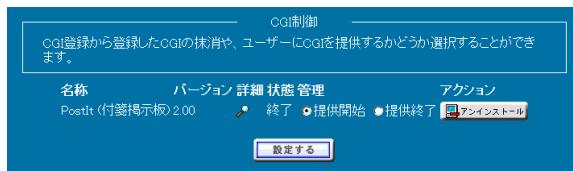
下記の内容に問題がなければ設定ボタンを押してパッケージをインストールしてください。

名称	Postit (付箋掲示板)
バージョン	2.00
配布元	Horizon Digital Enterprise, Inc.
詳細	メッセージを付箋紙のように貼り付ける掲示板

設定する

内容に間違いがなければ「設定する」ボタンを押します。

## 2. CGI 制御



この画面では登録された CGI をユーザーに提供するかどうかの制御及び CGI パッケージのアンインストールを行います。

### ■ CGI の提供制御

登録された CGI は「提供終了」の状態になっています。ユーザーにサービスを提供したいパッケージの「提供開始」を選択し、「設定する」ボタンを押します。すると状態が「開始」になりユーザーがインストールを行えるようになります。

提供を終了するには、「提供終了」を選択後、「設定する」ボタンを押します。すると状態が「終了」になり、ユーザーはインストールを行えなくなります。



「提供終了」にしても、ユーザーがインストール済みの CGI を削除することはありません。

「詳細」ボタンを押すと CGI パッケージの詳細情報を確認することができます。

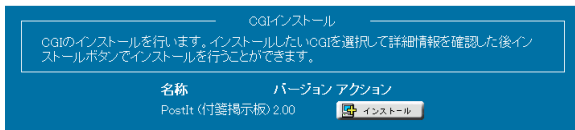
### ■ CGI パッケージのアンインストール

不要になったパッケージのアンインストールを行うには、「アンインストール」ボタンを押します。削除する CGI パッケージの確認画面が表示されますので、間違いが無ければ「設定する」ボタンを押してください。パッケージが削除されます。

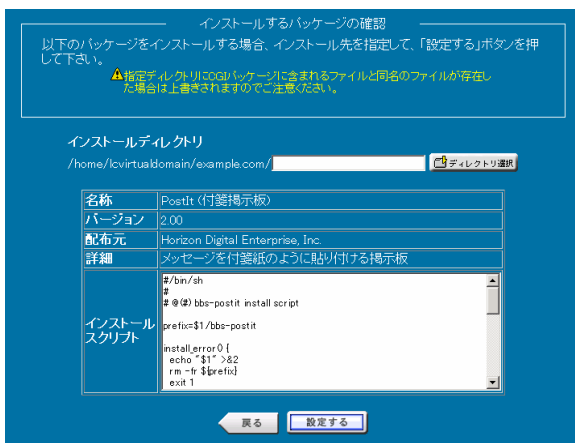


パッケージのアンインストールを行うと、ユーザーがインストール済みの CGI も全て削除されます。

### 3. CGI インストール



この画面では各ユーザーが使用する CGI のインストールを行います。インストールを行いたいパッケージの「インストール」ボタンを押すと、インストールするパッケージの確認画面が表示されます。



内容に問題がない事を確認後、インストールディレクトリを指定し、「設定する」ボタンを押すと、指定ディレクトリを基準としてインストールが行われます。

インストールディレクトリの指定は各ユーザーの権限の範囲内でのみ行うことができます。なお、root、ispadmin、ladmin ユーザーは全てのディレクトリをインストールディレクトリとして指定することが可能です。

インストールスクリプトの実行はログインユーザの権限で行われます。ただし、ispadmin ユーザーの場合は root 権限で実行されます。

インストールディレクトリの権限はあらかじめファイルマネージャ機能等を利用して書き込み可能な状態に設定しておく必要があります。

#### スクリプト実行の危険性について



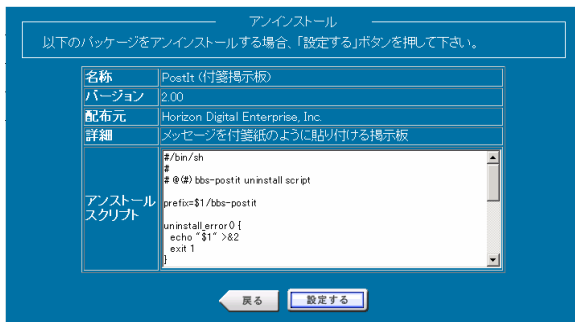
スクリプト内では任意の処理を行う事が可能ですので、内容によっては既存のファイルやディレクトリを破損するなど重大な問題を生じさせる可能性があります。

スクリプトに不明な点がある場合には処理を中断し、CGI パッケージの内容を十分に確認してください。ユーザーが作成したスクリプトの処理により不具合が発生しても、当社は一切の責任を負いかねますので、この作業は慎重に行ってください。

## 4. CGI 管理



この画面では各ユーザーがインストールした CGI のアップデート及びアンインストールを行います。アンインストールまたはアップデートを行うパッケージのそれぞれのボタンを押すと確認画面が表示されます。



内容に問題がない事を確認後、「設定する」ボタンを押すと、アンインストールスクリプトが実行されます。

アンインストールスクリプトの実行はログインユーザーの権限で行われます。ただし、ispadmin ユーザの場合は root 権限で実行されます。



アンインストールスクリプトの実行にもインストールスクリプトと同様の危険性があります。詳細についてはインストールの項の注意書き「スクリプト実行の危険性について」をご参照ください。

## 5. CGI の初期化

多くの CGI パッケージはユーザー共通の設定のみ行われた状態でインストールされます。そのため、個別の設定を行うにはインストール後に手作業による設定を行わなくてはなりません。

手作業で行わなくてはならない一般的な設定には以下のようなものがあります。

- ファイルアクセス権限の設定
- 初期パスワードの設定
- 設定ファイルの編集

これらについては各 CGI パッケージに依存しておりますので、詳細についてはパッケージ付属のドキュメント及び配布元 URL をご参照ください。

## 6. CGI パッケージング

本機能を使用するための CGI パッケージの仕様について説明いたします。

### ● ディレクトリ構成

/ はディレクトリを表します。

```
/
+---/ package.xml
+---/ scripts
|   +--- install
|   +--- uninstall
|   +--- update
+---/ sources
    +--- CGI ファイル
    +--- CGI ファイル
```

### ● ファイル・ディレクトリ仕様

#### ・ scripts ディレクトリ(必須)

install、uninstall、update の各実行ファイルが格納されます。

#### ・ sources ディレクトリ(必須)

オリジナルの CGI ファイルが格納されます。CGI インストール処理はログインユーザーの権限で行われますので、最低限全ユーザーに読み取り権限を与えた形で格納しておく必要があります。

#### ・ package.xml ファイル(必須)

この CGI パッケージの情報を記載します。

## package.xml サンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="EUC-JP" ?>
<package version="1.0" packagerversion="0.1">
  <name>PukiWiki</name>
  <packagename>pukiwiki-1.4.5_1_notb</packagename>
  <url>http://221.245.246.245/</url>
  <sitename>http://221.245.246.245/</sitename>
  <vendor>Horizon Digital Enterprise, Inc.</vendor>
  <description>PHP で動作している Wiki エンジン</description>
  <license>GPL version 2</license>
  <changelog>
    The first package --- (Changelog)
  </changelog>
  <release>
    <state>stable</state>
    <packageversion>1.0.0</packageversion>
    <version>1.4.5_1</version>
    <date>2005-09-03</date>
  </release>
</package>
```

## ・パラメーター一覧

### package

name	プログラム名(必須)
packagename	system 用プログラム名(必須)
url	サイトの URL
vendor	配布しているサイトの名称
description	プログラムの説明。概要
changelog	プログラムの Changelog
license	プログラムのライセンス

### package/release

version	バージョン
packageversion	system 用バージョン(必須)
date	パッケージの作成日
state	パッケージの安定性

## ・install ファイル(必須)

ユーザーがインストールを行う際に実行される実行ファイルです。シェルスクリプト他任意の書式で記述することができます。

## ・uninstall ファイル

ユーザーがアンインストールを行う際に実行される実行ファイルです。シェルスクリプト他任意の書式で記述することができます。

## ・update ファイル

ユーザーがアップデートを行う際に実行される実行ファイルです。シェルスクリプト他任意の書式で記述することができます。

## ● CD 付属のサンプル CGI パッケージ

CD の HDE\_Controller-4.0.0/CGI/sample ディレクトリにサンプルの CGI パッケージが格納されております。これらのサンプル CGI パッケージはパッケージ作成の参考として収録しているものですので、その内容や使用方法等につきましてはサポート対象外となります。また、環境によりましては CGI が正常に動作しない可能性もございますので、ご了承ください。

HDE Controller 4 ISP Edition バーチャルドメインマニュアル

2007年7月5日 三版 4-003

株式会社 HDE

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 16-28

